

環富士山地域 広域連携ビジョン



富士山ネットワーク会議
富士市 富士宮市 御殿場市 裾野市 小山町



世界遺産となった富士山を仰ぎ、まちづくりの中心に据えている
静岡県側の環富士山地域4市1町。
富士市、富士宮市、御殿場市、裾野市、小山町が
環境や観光、防災などのさまざまな分野で連携を図り、
共通の認識のもと課題解決に取り組んでいます。



富士市から望む富士山と茶畑
第6回 富士山百景写真コンテスト
中部エリア賞 「八十八夜の頃」

CONTENTS



第1章 富士山周辺地域の連携の必要性	2
1 はじめに ビジョン作成の目的	
2 背景	
3 広域連携の経緯	
4 新しい広域連携の効果	
5 富士山ネットワーク会議について	
第2章 圏域の概要	4
1 地理的概要	
2 面積・人口・世帯	
3 自然と歴史・文化	
【1】自然	
【2】歴史・文化	
4 圏域の特色	
5 各種連携活動の実績と現状	
6 圏域の課題	
第3章 圏域の目指す将来像	22
基本構想 【1】統一テーマ	
【2】目指す圏域像	
【3】圏域づくりの視点	
第4章 連携した地域づくりの方針について	24
1 基本計画	
【1】連携事業の推進	
【2】各分野の施策・事業の方向性	
2 ビジョンの推進体制と将来的な方向性	
【1】富士山ネットワーク会議	
【2】各研究会の取組事業	
【3】連携の推進・強化と将来的な方向性	
資料編	38
1 各市町データ	
2 平成23年度 環富士山地域の広域連携に関する 住民アンケート調査結果	
3 富士山ネットワーク会議名簿一覧	

1 はじめに ～ビジョン作成の目的～

富士山ネットワーク会議は、富士地域と駿東地域という既存の枠を超え、「富士山」をキーワードに環富士山地域という新たな視点から、平成21(2009)年5月に静岡県側の富士山麓の4市2町（富士市、富士宮市、御殿場市、裾野市、小山町、芝川町〔当時〕）によって発足されました。その目的は共通する課題の解決や地域振興について共通認識を持ち、相互協力、情報発信を行うことにより、当該地域の発展と市民生活の向上を図ることです。

これまで、企画や広報などの各研究会において様々な事務事業が実施されてきており、行政レベルでは当会議の認識も浸透してきています。しかし、平成23(2011)年に実施した住民アンケート調査結果からは、住民の認知度はまだまだ低いと言わざるを得ないものでした。

これは、広報、啓発活動が少ないという直接的な要因もありますが、本会議の活動によって将来何が生み出されるのか、この地域がどのようなようになるのかという長期的な未来像を示していないことも、要因の一つであると考えられます。

こうしたことから、富士山ネットワーク会議では道州制の動きも視野に入れつつ、富士山周辺地域の発展の姿を示す「環富士山地域広域連携ビジョン」（以下、「広域連携ビジョン」という。）を作成することとしました。

2 背景

少子高齢化が急速に進行し、人口減少社会が到来している我が国において、経済状況及び雇用情勢は低迷を続けています。また、個人の価値観・ライフスタイルの多様化に伴い、様々な分野で豊かさを実感できる行政サービスの提供が求められています。

地方分権・地域主権の進展に伴い、地域間の競争は一層激化するものと予測されるため、よりきめ細かく効果的な行政サービスの提供と地域経済の活性化が求められます。

そこで、日本の象徴ともいえる富士山の麓に広がる地域として、観光や環境などの分野において、構成市町がお互いの個性を尊重しながら、一つの地域としての意識を深め、地域の魅力向上に取り組むことが必要です。

3 広域連携の経緯

静岡県側の富士山麓に位置する自治体は、これまでも様々な分野で、いくつかの組み合わせにより、富士山関連の課題について共同で取り組んできました。

この富士山ネットワーク会議も、こうした取組の中から生まれたものです。

まず、昭和47(1972)年に発足した「富士山の自然と環境を守る会」は、富士山ネットワーク会議と同じ4市2町（当時）で構成され、名称のとおり富士山の自然・環境保全に関する協議を行っています。

この会において、富士山圏域のイメージ戦略として、富士山ナンバーの提案とその承認に向けた活動を積極的に進めてきました。

富士山ナンバーは、平成20(2008)年11月に実現されましたが、この共同の活動を通して、この圏域での防災、観光等に関する広域連携の必要性が改めて見直されることとなり、その結果、各首長の総意のもと、富士山ネットワーク会議を発足しました。

富士山周辺地域の連携の必要性

4 新しい広域連携の効果

前述のように、現在富士山ネットワーク会議を構成している4市1町のエリアは、静岡県側の富士山麓に位置しており、環境保全、火山防災対策、観光振興、有害鳥獣対策、景観形成など、各市町単独ではなく、広域連携による施策の推進がより効果をもたらす課題が多くあります。広域連携は、連携規模の拡大による合理化・効率化のみならず、各施策の創造性・発展性においても効果的です。

また、広域連携の特徴の一つとして、お互いの個性を尊重することにより、4市1町個々の輝きを失わず、全体として強い地域づくりを進めていくことができます。

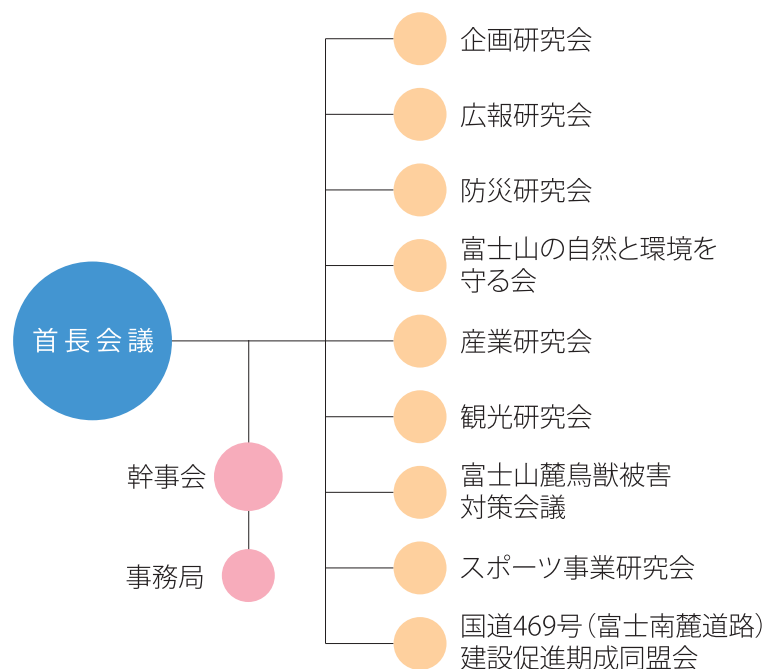
さらに、この連携は、従来の東部、中部、西部といった地域割りなどと異なり、各市町の自由な意志に基づいた連携であり、お互いが主体性をもって取り組める点がこれまでの広域連携と異なっています。

このような自発的な連携の推進は、各市町を今まで以上に輝かせ、圏域全体としての活性化につながっていきます。

世界遺産「富士山」という共通のシンボルを掲げている自治体が、一つの地域としての意識を持つことにより、環境や観光、防災など、さまざまな分野において地域の活性化や住民サービスの拡充を図ることが期待できます。

5 富士山ネットワーク会議について

富士山ネットワーク会議は、下図で示された組織で構成されています。首長会議は富士山ネットワーク会議を構成する4市1町の市長・町長で構成されるもので、この中から会長1名、副会長1名が選出されます。幹事会は各市町の企画担当課長が幹事となり、そのうち会長市町の幹事が代表幹事となります。幹事会では首長会議の調整やサポートしています。9つの研究会では各々の専門分野について、事業を行っています。詳細は第4章で述べていきます。



1 地理的概要

静岡県東部に位置する本圏域は、富士山をまちづくりのシンボルとして活動する富士山麓の自治体の集合体であり、古くから共通の自然環境や歴史文化等を持ち、同様の課題を抱えながらそれぞれの広域的な連携の中で、各地域の発展に大きな役割を果たしてきました。

本圏域における従来の行政的な地区割りでは、富士山の南西麓から駿河湾に面し、身延線で繋がる富士地区と、国道246号と御殿場線を機軸とする駿東地区（沼津市や三島市を除いて特に北駿地区と呼ぶ場合がある）に大別され、それぞれの地域内では古くから生活圏を共にし、様々な繋がりが存在しています。この生活圏の異なる2地区を融合させた本会議の連携は、既存の枠から自発的に一步踏み出した新しいネットワークとなります。

本圏域は、国内の東西を結ぶ重要な交通路線の大動脈上に位置し、東名高速道路、東海道新幹線、最近では新東名高速道路という高速交通網の整備による恩恵をいち早く享受してきました。新東名高速道路に関しては、平成24(2012)年4月に御殿場JCTから三ヶ日JCTまでの間が開通し（御殿場JCT以東も順次整備）、これにより、東海地震の危険性が予測される静岡県の東西交通のダブルネットワーク化が実現することとなりました。技術の粋を集めた最新のインフラである新東名高速道路がこの圏域内を通過していることから、この新東名高速道路を活用した取組も大いに期待されます。また、内陸側の国道469号は富士地区と駿東地区を結びつけ、交通の要衝となるだけでなく、富士山麓圏域の広域連携の礎となっています。

東京までの直線距離は約100kmと、都心までの距離は北関東の県庁所在地と同程度であり、交通の利便性からみても首都圏の一拠点と言って過言でない立地にあります。また本圏域は、駿東地区において御殿場線で小田原市等と繋がり、鮎沢川にて同じ河川流域を持つ神奈川県や、身延線で富士駅と甲府駅を結び、国道139号や東富士五湖道路を経て中央自動車道にアクセスする山梨県とも強い結びつきが存在しています。

さらに、近年のこの圏域の大きなトピックスとして、平成25(2013)年6月の富士山の世界遺産登録があげられます。この登録によって交流人口の増加など多くの効果が見込まれますが、富士山を中心としたまちづくり・圏域づくりについて改めて検討するとともに、富士山を世界に誇れる山として保全し、美しい自然と富士山文化を後世に継承していくこととなります。

富士山は日本のシンボルとして国内外で圧倒的な知名度があります。農作物や企業名、製品名に「富士山」「富士」「不二」「フジ」などと名付けられているように、富士山のブランド力には計り知れないものがあります。富士山の世界遺産登録に関心が集まる中で、近年では、富士山周辺に所在する工場に「富士山工場」と名付ける企業もあり、企業のイメージ戦略にも富士山ブランドが役立っているようです。この圏域は、まさに富士山の麓に位置しており、「日本一」「美しさ」「自然」などの富士山が持つイメージを企業や商品のブランディングに活用するには絶好のロケーションにあります。

その日本の象徴である富士山を擁する本圏域は、駿河湾から富士山頂までに至るその高低差で日本一を誇り、構成市町の合計面積は政令指定都市としてトップクラスである静岡市(1,411.85km²)に匹敵しています。また、その独自性に富んだ地理的条件及び環境の多様性は本圏域のポテンシャルを象徴するものであり、将来的には、関東圏西部地域の中核都市圏として広域連携の発展が期待できる地域と言えます。

圏域の概要



2 面積・人口・世帯（平成25年4月1日現在）

	面積	人口	世帯数
富士市	245.02km ²	259,339人	99,410世帯
富士宮市	388.99km ²	135,492人	52,413世帯
御殿場市	194.85km ²	89,318人	34,667世帯
裾野市	138.17km ²	53,814人	21,149世帯
小山町	136.13km ²	19,966人	7,480世帯
合計	1103.16km ²	557,929人	215,119世帯

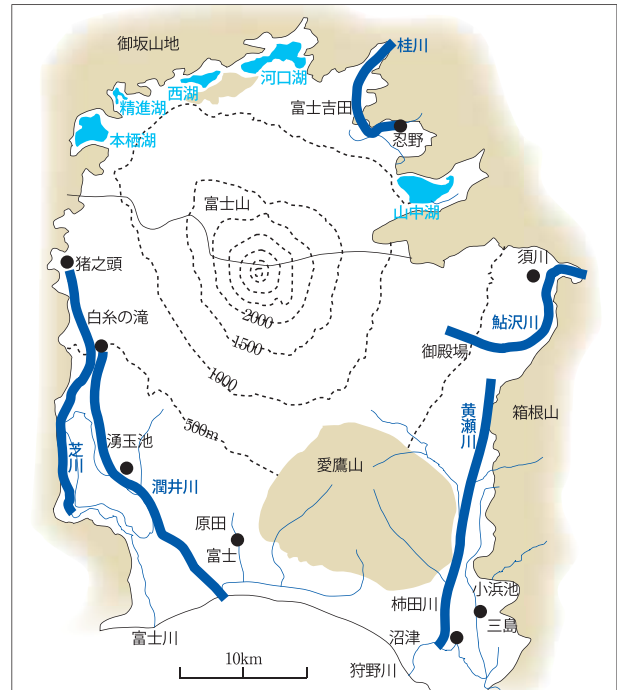
3 自然と歴史・文化

【1】自然

本圏域の自然は、富士山の恵みにより形成され、現在も変化し続けています。富士山は、幾度となく噴火を繰り返し、大量の溶岩を流出しました。南西側では富士市や富士宮市の市街地や富士川の川原にまで、南東側では箱根山と愛鷹山の間を流れ、三島駅付近や柿田川上流部まで到達しました。こうした溶岩流出は短期的に見れば大規模災害といえますが、長期的な視点で考えたとき、溶岩流が与えた様々な恵みが見えてきます。そのひとつが、溶岩流が地下の水路を確保したために、その末端から湧き出る大量の地下水です。

富士山の多孔質のスコリアや溶岩で覆われた地域は浸透性がよく、富士山域に降った雨や雪は長い年月、伏流水として地下水脈を流れて、一日の総湧水量500万t余りと言われる地下水が常に湧き続けています。富士山南側には富士市吉原湧泉群、南西側には富士山本宮浅間大社湧玉池（特別天然記念物）、西側には白糸の滝（国指定の名勝及び天然記念物）、猪之頭湧泉が存在し、飲用に適した豊富な湧水が見られます。

富士山を取り巻く河川は、東から鮎沢川、黄瀬川（柿田川）、潤井川、芝川、桂川の5河川により構成されており、これら良好な水質を生かして、19世紀から製紙業が起り、近年では製薬業などファインケミカル工業が発展しています。また、富士山麓には多くの企業の巨大工場が数多く誘致・建設されており、こうした施設でも地下水を工業用水として利用しています。



湧玉池

富士山の雪解け水が何層にもなった溶岩の間を通り湧出するもので、特別天然記念物に指定されています。毎日約20万t湧き出ており、富士宮市内を流れる神田川の水源となります。水温は1年を通して13℃前後で一定しています。清水の湧出する水源の岩上には朱塗優雅な水屋神社があります。富士山登山者はこの霊水に禊ぎをして登山する古くからの習わしがあります。

白糸の滝

天下の名瀑としてその名を轟かす、国の名勝及び天然記念物、白糸の滝。

この滝は、富士山の雪解け水が、上部の水を通す地層である新富士火山層と下部の水を通さない地層である古富士火山層の境の絶壁から湧き出しています。高さ20m・幅200mの湾曲した絶壁から、大小数百の滝が流れ落ちています。



また、富士山麓には現在も多くの自然が残っていますが、自然形態は時代と共に変化を遂げてきました。昭和20(1945)年以前、山麓部の多くは草原であり、すすき野原が一面に広がっていました。野草を牛馬の飼料として用い、冬には野焼きをすることにより良質な草資源の維持に努めてきましたが、生活様式の変革、スギ・ヒノキ人工林や牧場への転換によって自然草原は減少していきました。現在では朝霧高原の一部と東富士演習場で本圏域の草原を見ることができます。広さ1,765haで富士宮市・富士市・裾野市・御殿場市・小山町にまたがる富士山自然休養林は、昭和43(1968)年に国の指定を受けており、森林レクリエーションの場として森林浴、ハイキング、キャンプなど、自然に親しみ楽しんでもらうことができます。



御殿場市から望む富士山

【2】歴史・文化

本圏域の中心にそびえる富士山は、日本を代表し象徴する、日本最高峰の秀麗な円錐成層火山として世界的に著名です。その荘厳で崇高な姿から富士山は古くから信仰の対象とされ、多くの信仰登山者（道者）が山頂を目指しました。

溶岩流の末端や登山道の拠点、山麓には浅間神社が建立されています。18世紀後半から爆発的に流行した富士講の信者は、山頂を目指して富士山に登るだけでなく、周辺の風穴・溶岩樹型や湧水地などを巡り、巡礼や修行を行っていました。また、富士山の持つ神秘的な美しさは、室町時代以降、絵画作品に多数描かれ、19世紀後半には、葛飾北斎や歌川広重などによる顕著な普遍的価値を持ち、海外にも影響を与えた「浮世絵」が発展するなど、日本独特の芸術文化を育んできました。



山梨県立博物館所蔵

富嶽三十六景 凱風快晴（葛飾北斎）

世界で最も親しまれている富士山の絵で葛飾北斎の代表作です。天保2年から3年（1831~1832年）頃に描かれたとされ、日本のみならず、ゴッホやドビュッシーなど世界の芸術家にも大きな影響を与えました。

第二次世界大戦以降、富士山への登山は、富士信仰の核心を受け継ぎつつも、日本人の価値観や経済状況の変化により、登拝を中心としたものから、富士山への憧れを主な動機とするものに変化しました。昭和45（1970）年には南麓の富士山スカイラインが開通し、富士山への登山者は急増しました。



富士登山

御殿場口・須走口・富士宮口・富士吉田口から年間約30万人が富士山頂を目指しています。

現在では、富士山の自然保護・環境保護活動が行政機関や多数のNPO法人、民間団体によって行われ、登山道・山麓におけるごみの回収、各地の湧水の保護やその水源を保護するための植林活動、自然林の回復活動が行われています。これらの活動は富士山への信仰や富士山を愛する気持ちがその動機の一つとなっています。



富士山クリーン大作戦

美しい富士山を後世にいつまでも残していくという考えを広く普及啓発することを目的として、富士山頂や各登山口などでごみの回収が行われます。

また、本圏域では、古くから人々や文物の交流がありました。富士山から愛鷹山の山間部を通る現在の国道469号に相当する道は、古代においては、愛鷹山南麓を通る根方街道・浜街道が整備されるまでは「最古の東海道」であったとの説もあります。中世において源氏によるいわゆる「富士の巻狩」は、富士のすそ野の東方（現在の御殿場市や裾野市）に始まり、より西側の朝霧高原（現在の富士宮市）に及ぶ範囲で行われていたとされており、この道が利用されていたと考えられます。周辺にはこの巻狩にちなんだ伝説や地名が残されています。豊臣時代には、京都大仏殿造管用の材料を運搬する際にもこの道を通ったと伝えられています。江戸時代にはこの道は通称「十里木街道」と呼ばれ、これは現在の小山町竹之下から大宮（富士宮）までの距離が約十里であったことに由来しています。富士山を常に横に見ながら通るため、「横走道（よこはしりみち）」とも呼ばれていました。東海道の脇街道として旅人に用いられ、現在の裾野市十里木地区には関所が置かれました。また商業路として岳南から駿東へ茶やたばこ、真綿等が運ばれていました。

現在では、このエリアを横断する国道469号は、富士南麓道路ともいわれており、東名高速道路や国道1号の代替道路としての役割を持つとともに、4市1町の地域の活性化や交流の基盤作りにもつながる重要な路線となっています。



富士の巻狩

武士たちが山野に集い、鹿や猪などの獲物を競って狩りくらべをする狩競（かりくら）の中でも、大規模なものを巻狩といい軍事訓練を兼ねて行われていました。源頼朝は多くの御家人を集め、富士のすそ野の東方を中心に壮大な巻狩を行いました。



十里木関所跡

現在の国道469号は、「十里木街道」と呼ばれており、かつては、静岡、山梨、神奈川をつなぐ重要な交通路でした。現在の裾野市十里木には関所が設けられていました。

CHAPTER 2

圏域の概要

富士山は、わたしたち日本人にとってかけがえのない宝物であり、人類共通の財産として未来に引き継いでいくため、平成25(2013)年6月に、世界遺産に登録されました。本圏域には、世界遺産である富士山の価値を構成する様々な構成資産が所在しており、古くから現在まで受け継がれてきました。



以下、上図番号順に富士山の世界遺産の構成資産を説明します。



①大宮・村山口登山道(現在の富士宮口登山道)

富士山本宮浅間大社を起点とし、村山浅間神社を経て山頂南側に至る登山道です。12世紀前半から中ごろにかけて登山が本格的に開始されたとされています。



②須山口登山道(現在の御殿場口登山道)

須山浅間神社を起点とし、山頂南東部に至る登山道です。その起源は明確ではありませんが、記録では文明18(1486)年に存在が確認できます。宝永7(1707)年の噴火では壊滅的な被害を受け、完全に復興したのは安永9(1780)年のことでした。



③須走口登山道

富士浅間神社を起点とし、八合目で吉田口登山道と合流し山頂東部に至る登山道です。その起源は、明確ではありませんが、登山道からは至徳元（1384）年の年号が入った懸仏（かけぼとけ）が出土しています。18世紀後半に入ると、富士講を含めた多くの道者が利用しました。



④富士山本宮浅間大社

富士山を浅間大神として祀ったことを起源とする神社が浅間神社であり、富士山本宮浅間大社はその総本宮です。境内には富士山の湧水である「湧玉池」があり、かつては道者がここで登山前の水垢離（みずごり）を行いました。



⑤山宮浅間神社

富士山本宮浅間大社の前身とされています。拝殿・本殿等を設けず、富士山を望む遥拝所のみという特殊な形態は、噴火を鎮めるために山を遥拝していた古代の富士山祭祀の形をとどめていると推定されています。



⑥村山浅間神社

平安時代末期に富士山の噴火が収まってくると末代上人など山中で修行する人々が現れました。これが発展し、鎌倉時代の終わりには富士山における修験道が成立します。この中心となったのが村山浅間神社です。

CHAPTER 2

圏域の概要



⑦ 須山浅間神社

明治前半まで、南東側からの登山道は裾野市を通る須山口でした。須山浅間神社はその起点でした。宝永噴火の被害からの本格的復興を果たすと、富士山よりも東側を中心とした道者が立ち寄っています。



⑧ 富士浅間神社（須走浅間神社）

須走口登山道の起点となる神社で、富士講信者が多く立ち寄り、33回を一つの区切りとする登拝回数等の記念碑が約80基残されています。宝永噴火では大きな被害を受けましたが、享保3（1718）年に再建され、修理を重ねながら現在に至っています。



⑨ 人穴富士講遺跡

15～16世紀、富士講開祖の長谷川角行が修行をし、入定した聖地です。信者たちは人穴への分骨埋葬などを望み、彼らが建立した約230基の墓碑、供養碑、記念碑が残されています。



⑩ 白糸の滝

富士山の湧水が約200mにわたり噴出しています。富士講開祖の長谷川角行が修行を行った地とされ、富士講を中心とした人々の巡礼・修行の場となりました。また、景勝地としても古くから有名で、和歌・絵画の題材にもなっています。

4 圏域の特色

富士山ネットワーク会議を構成するこの4市1町は、富士山の豊かな恵みを十分受け、発展してきた圏域です。また、この圏域は、首都圏と中京圏との間、やや首都圏寄りに位置し、東名高速道路・新東名高速道路や東海道本線、新幹線をはじめとする鉄道路線などの大規模なインフラでつながり、東西交通路上の要衝としての利点を生かしながら経済的な躍進を果たしてきました。

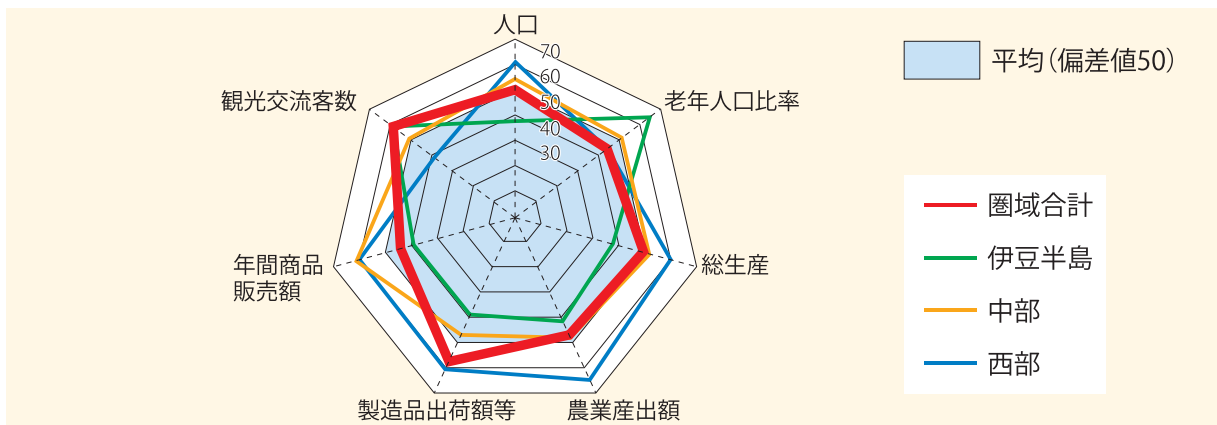
これは、データ(図表2-4-1)からも明らかであり、総面積、人口、総生産、農業産出額、製造品出荷額等、年間商品販売額及び観光交流客数において、全県に占める割合はほとんどの項目で10%を超えており、中でも製造品出荷額等及び観光交流客数は20%以上を占めています。産業構造から見て非常にバランスが良く、人口やエリアの広がりからも更なる発展性が見込まれる圏域です。また、老年人口比率も県平均を2ポイント近く下回っており、若者が多く活気ある圏域であるとも言えます。

他の地域との比較においても、東部地域の1圏域に過ぎない当圏域が、政令指定都市である静岡市や浜松市の数値と遜色がないとの結果が出ていることから、この圏域の実力の高さが伺えます。

■富士山ネットワーク会議構成市町の主要データ [図表2-4-1]

	総面積 (km ²)	地域に 占める 割合(%)	人口 (千人)	地域に 占める 割合(%)	老年人口 比率(%)	総生産 (億円)	地域に 占める 割合(%)	農業産出額 (億円)	地域に 占める 割合(%)	製造品出荷額等 (億円)	地域に 占める 割合(%)	年間商品 販売額(億円)	地域に 占める 割合(%)	観光交流客数 (千人)	地域に 占める 割合(%)
	H25.4.1		H25.4.1		H25.4.1	平成22年度		平成18年度		平成23年		平成19年度		平成23年度	
富士市	245.0	16.9	259	26.2	22.5	10,548	27.5	67	17.3	13,564	32.3	6,783	27.3	6,433	16.0
富士宮市	389.0	26.8	136	13.4	23.6	5,186	13.5	120	30.9	6,414	15.3	1,824	7.3	5,221	13.0
御殿場市	194.9	13.4	89	9.1	20.4	3,406	8.9	25	6.4	3,725	8.9	1,739	7.0	13,216	32.9
裾野市	138.2	9.5	54	5.4	20.5	1,898	4.9	10	2.6	4,780	11.4	582	2.3	2,128	5.3
小山町	136.1	9.4	20	2.0	24.3	1,351	3.5	7	1.8	1,401	3.3	183	0.7	4,332	10.8
圏域合計	1,103.2	75.9	558	56.4	22.3	22,389	58.3	229	59.0	29,884	71.2	11,111	44.7	31,330	77.9
東部	1,453.0	100	990	100	23.3	38,411	100	388	100	42,001	100	24,883	100	40,229	100
伊豆半島	1,229.0		268		34.8	7,957		128		1,444		4,048		28,129	
中部(静岡市のみ)	1,412.0		719		25.9	31,354		231		15,611		33,473		23,663	
志榛・中東遠	2,042.0		959		24.1	45,404		1,085		55,313		18,487		23,464	
西部	1,645.0		874		23.5	34,529		611		35,129		29,655		13,589	
(うち浜松市)	1,558.0		813		23.6	29,536		541		19,701		29,044		13,001	
静岡県	7,780.0		3,809		24.9	157,656		2,443		149,498		110,546		129,074	
当圏域の比率(%)	14.2		14.6			14.2		9.4		20.0		10.1		24.3	

■本圏域と他地域の主要データ比較図(偏差値) [図表2-4-2]



発展性のある活動の具体例としては、まず、現在分譲中の富士御殿場工業団地、富士山フロント工業団地、富士山南陵工業団地をはじめとする圏域内の多くの工業団地の存在があげられます(図表2-4-3)。そこでは多くの雇用が生まれ、活発な生産活動が行われています。

また、観光交流客数の多さは、この圏域の多種多様な観光スポットの数に比例しており、具体的には、圏域随一の集客を誇る御殿場市の「御殿場プレミアム・アウトレット」、富士山について楽しく学べる体験学習施設である「富士山樹空の森」や富士山の山腹の集客施設である小山町の「富士スピードウェイ」、裾野市の「富士サファリパーク」、「ぐりんぱ」、富士市の「富士山こどもの国」は全国的な知名度があり、自然景観・歴史的景観を楽しむ名勝として富士宮市の「白糸の滝」や「浅間大社」、小山町の「富士霊園」などが存在します。また、近年の新たな集客スポットとして高速道路内のSAが注目されていますが、東名高速道路において富士市の富士川SA内の「富士川楽座」が賑わうなど、富士山の麓には数多くの著名な観光スポットがひしめき合っています(図表2-4-3)。さらには、富士宮市の「富士宮やきそば」をはじめ、富士市の「富士つけナポリタン」、裾野市の「すその水ギョーザ」、御殿場市の「御殿場みくりやそば」、小山町の「わさびを使った料理」など、食によるまちづくり・まちおこしについてもそれぞれアイデアを絞った特色ある取組を行っています(図表2-4-4)。

■ 圏域内の工業団地及び観光スポット位置図 [図表2-4-3]

工業団地一覧

- ① ハイテクパーク富士小山 ② 富士小山工業団地 ③ 神場南企業団地 ④ 駒門工業団地
- ⑤ 富士御殿場工業団地 ⑥ 新富士裾野工業団地 ⑦ 富士裾野工業団地 ⑧ 裾野工業団地
- ⑨ 富士グリーン工業団地 ⑩ 富士山フロント工業団地 ⑪ 浮島工業団地
- ⑫ 富士・駿河金属工業団地 ⑬ 北山工業団地 ⑭ 山宮工場団地 ⑮ 富士山南陵工業団地
- ⑯ 富士宮鉄工団地 ⑰ 西富士工業用地

観光スポット一覧

- ① 富士スピードウェイ ② 富士霊園 ③ 富士山樹空の森
- ④ 御殿場プレミアム・アウトレット ⑤ ぐりんぱ ⑥ 富士サファリパーク
- ⑦ 富士山こどもの国 ⑧ 富士川楽座 ⑨ 浅間大社 ⑩ 白糸の滝



■ご当地グルメ 一覧 [図表2-4-4]

富士宮市

富士宮やきそば

B級ご当地グルメで日本一となった「富士宮やきそば」。ラードを搾り取った残りの肉かすとイワシのだし粉が絶妙な風味で、モチモチした麺の食感を引き立てます。戦後引揚者によって工夫された独特な製法が現在もそのまま残る蒸し麺は、他とは一線を画すものです。



戦後引揚者によって工夫された独特な製法が現在もそのまま残る蒸し麺は、他とは一線を画すものです。

富士市

富士つけナポリタン

「つけナポリタン」を提供する各お店の特徴を十分に活かすため、「スープは必ずトマトソースをベースに、鶏ガラやコンソメ、ブイヨンなどお店独自のスープを活用したWスープが基本。麺とスープは別々につけ麺風!具材はお店のアイデアを活かしアレンジ自由!」と設定されています。



色々なお店で! 色々なトマトスープの!
色々な麺の! 色々な具の!
食べ歩きするのが楽しくなる「つけナポリタン」!

裾野市

すその水ギョーザ

裾野特産のモロヘイヤを使った「水ギョーザ」。モロヘイヤは古代エジプトのクレオパトラも愛用したとされ、食物繊維・ミネラル・ビタミン・カルシウムなどを豊富に含む、栄養価の高い健康食品です。すその水餃子は、モロヘイヤをタップリ使った翡翠色したヘルシーなギョーザです。



すその水餃子は、モロヘイヤをタップリ使った翡翠色したヘルシーなギョーザです。

御殿場市

御殿場みくりやそば

御殿場地方には、「大沼鮎沢御厨」(おおぬま あゆざわ みくりや)という伊勢神宮の神主大中臣氏を給主とした荘園があり、このことから御殿場地域が御厨と呼ばれるようになりました。また、この地では、古くから祝い事の際などに、客人への御馳走料理として手づくりのおそばを出す習慣があります。そのおそばこそが「みくりやそば」であり、そばのつなぎに「山芋」や「自然薯」を使うのが特徴で、のどごしの良さと素朴な味わいを兼ね備えています。出し汁に鶏肉を使用しているのも独特の特徴で、具材として「鶏肉」、「しいたけ」、「にんじん」を使用したものが基本レシピとして受け継がれています。



御殿場地方には、「大沼鮎沢御厨」(おおぬま あゆざわ みくりや)という伊勢神宮の神主大中臣氏を給主とした荘園があり、このことから御殿場地域が御厨と呼ばれるようになりました。また、この地では、古くから祝い事の際などに、客人への御馳走料理として手づくりのおそばを出す習慣があります。そのおそばこそが「みくりやそば」であり、そばのつなぎに「山芋」や「自然薯」を使うのが特徴で、のどごしの良さと素朴な味わいを兼ね備えています。出し汁に鶏肉を使用しているのも独特の特徴で、具材として「鶏肉」、「しいたけ」、「にんじん」を使用したものが基本レシピとして受け継がれています。

小山町

わさび DE グルメ

小山町特産の生わさびは、農林水産大臣賞を受賞するほどの良質なわさびです。町内の『道の駅』や『わさび店』では、その良質なわさびを使用した各種グルメを多数取り扱っています。



わさびドッグ



わさび最中



わさびパスタ



生わさび



わさびコロッケ

5 各種連携活動の実績と現状

本会議を構成する4市1町は、静岡県内のみならず隣接する神奈川県や山梨県の富士山周辺地域とともに様々な連携活動を行っています。その内容は行政間による連携から企業・各種団体が住民・行政とともに相互一体となった活動まで多岐に渡っています。ここでは代表的な活動を紹介します。

【1】富士箱根伊豆交流圏市町村ネットワーク(SKY)

～静岡県・神奈川県・山梨県一体となった活動例～



図形は、富士山と駿河湾と伊豆半島をシンボライズしました。アクセントとして箱根の位置に黄色の○を持ってきました。色は山の青と海の水色、そして波の形をした駿河湾で構成しています。白い文字は雲のイメージです。

目的

富士箱根伊豆交流圏の市町村が、圏域の自然環境、歴史、文化等を活かし守りながら、連携して交流を進め、課題の解決に取り組むことにより、人が集まり活気あふれる圏域を形成することを目的とする。設立は平成13(2001)年6月6日、事務局は会長市町村。

基本的な考え方

- ①山梨県8市町村、神奈川県10市町、静岡県20市町により構成された組織。
- ②交流・連携・調査・研究及び広報事業を行う。
- ③財源は、負担金、寄附金、その他による。

【2】富士山世界文化遺産登録推進両県合同会議

～静岡県・山梨県及び富士山周辺の市町村による活動例～



草原をイメージした緑色と大空をイメージした青色が富士山を形作っていて山梨、静岡両県が支えあう様子も表しています。

目的

静岡県及び山梨県相互の連携のもと、「富士山」の世界文化遺産への登録を推進することを目的に平成17(2005)年11月22日に成立。事務局は静岡県文化・観光部富士山世界遺産課と山梨県知事政策局富士山保全推進課。

基本的な考え方

- ①山梨県の1県1市3町3村、静岡県の1県7市3町により構成された組織。
- ②登録を効果的に推進するための総合調整、また登録に向けた関連施策や事業の推進とともに必要な資料の収集を行う。
- ③財源は両県と会議の構成市町村からの負担金による。

【3】ふじさんネットワーク

～静岡県内の企業や各種団体で構成される活動例～



会員相互の意識高揚と活動の証として作製されたものです。

目的

富士山憲章を周知、定着させていくとともに、環境保全運動を全国的な広がりをもって展開していくため、富士山を愛する多くの人々のパートナーシップに基づいたネットワークを形成し、県民をはじめ国民、事業者、行政が一体となって総合的な環境保全に取り組む。設立は平成11(1999)年10月23日、事務局は静岡県くらし・環境部自然保護課。

基本的な考え方

- ①富士山憲章の周知及び富士山の環境保全を行うグループ、企業、マスコミ、行政等によるネットワーク
- ②会員の自主性を生かした組織
- ③ネットワークの会費は徴収しない。
- ④会員は富士山憲章の趣旨に賛同した、環境保全団体、企業、行政等団体とし、個人の賛同者は賛助会員とする。



裾野市から望む富士山

【4】その他の連携活動

その他の活動（分野）	活動目的	構成市町村
国道469号建設促進期成同盟会	会を構成する4市2町の地域の発展と国土的観点から国道469号の建設を促進する。	山梨県1町 静岡県4市1町
富士山世界文化遺産協議会	富士山の保存管理及び整備活用並びにその周辺環境の保全を推進する。	山梨県7市町村 静岡県7市3町
環富士山火山防災連絡会 (災害時相互支援)	富士山の噴火に備えた防災対策での連携を図る。	山梨県7市町村 静岡県6市2町
富士山における 適正利用推進協議会 (標識等の整備)	富士山における安全かつ快適な利用の推進及び自然環境等の普及啓発、自然環境の保全、良好な風致景観の確保及び形成に寄与する。	山梨県3市町村 静岡県4市1町
ウルトラトレイル・マウントフジ (UTMF) 	トレイルランニングを通じ富士山の文化、自然環境の素晴らしさを国内外に伝える。	山梨県5市町村 静岡県4市1町
Mt.Fujiエコサイクリング 	サイクリングを通じて、富士山麗地域の活性化と国民の心身の健全な育成を図り、公益の増進に寄与する。	山梨県5市町村 静岡県4市1町
ぐるり・富士山風景街道 	富士山の見える道風景と裾野に広がる自然、歴史、文化、風景などをテーマとして、美しい地域と道空間づくりの支援を通じて「訪れる人」と「迎える地域」の豊かな交流による地域コミュニティの再生を目指した取組。	山梨県6市町村 静岡県4市1町



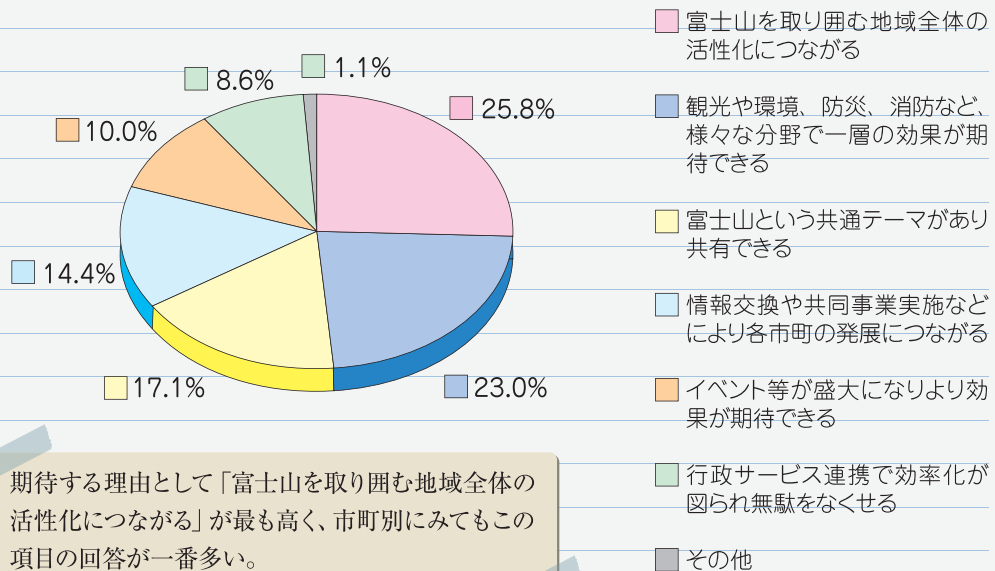
小山町から望む富士山

6 圏域の課題



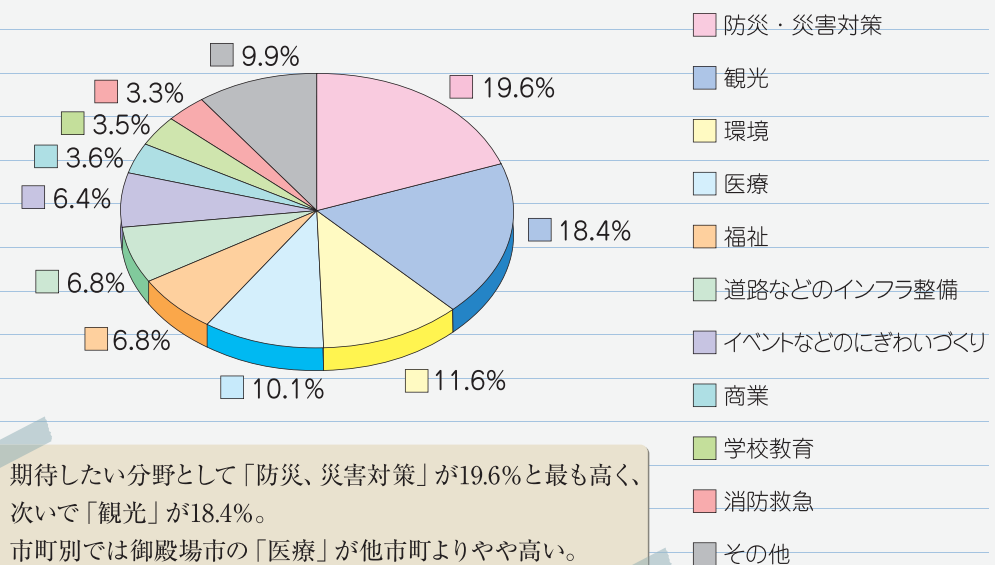
平成23年度環富士山地域の広域連携に関する住民アンケートから
(その他のアンケート項目は資料編を参照してください。)

Q. 富士山ネットワーク会議に期待する理由は何ですか？



期待する理由として「富士山を取り囲む地域全体の活性化につながる」が最も高く、市町別にみてもこの項目の回答が一番多い。

Q. 今後、富士山ネットワーク会議4市1町の連携した取組で、特に期待したい分野はどれですか。

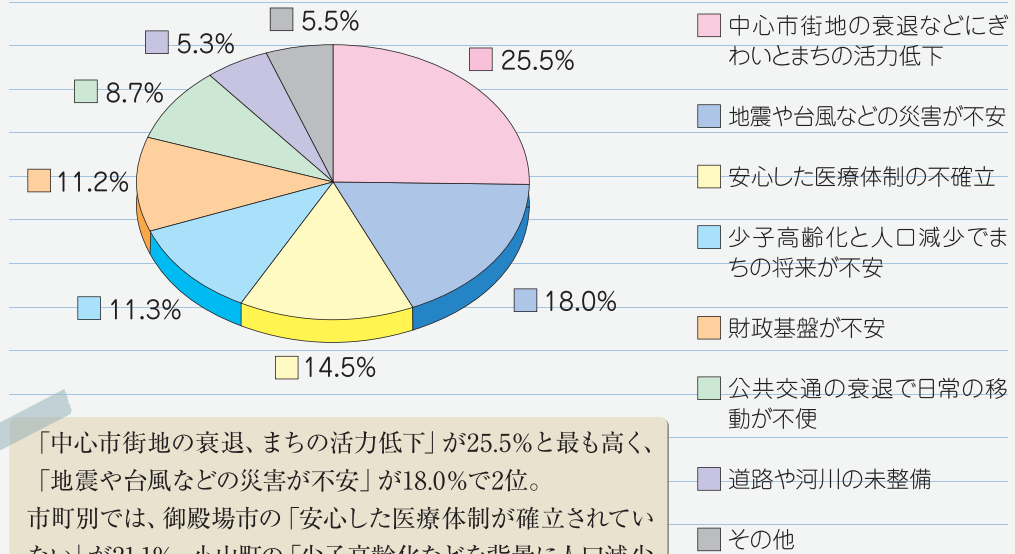


期待したい分野として「防災、災害対策」が19.6%と最も高く、次いで「観光」が18.4%。
市町別では御殿場市の「医療」が他市町よりやや高い。

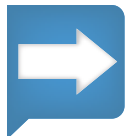
CHAPTER 2

圏域の概要

Q.あなたがお住まいの市町の課題は何ですか。

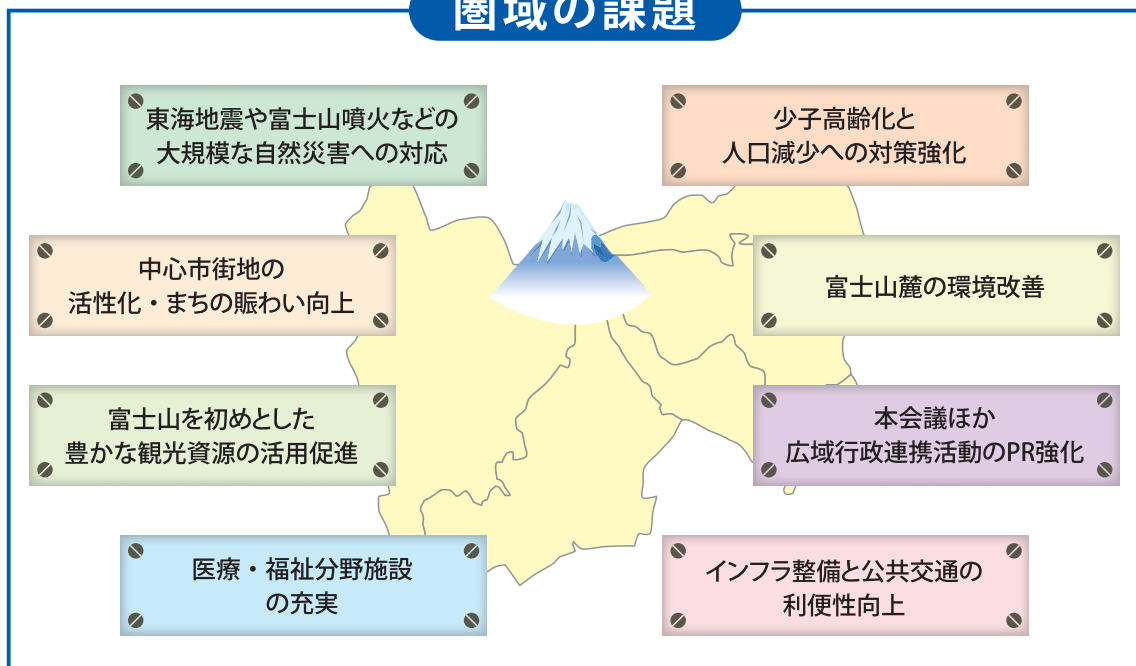


「中心市街地の衰退、まちの活力低下」が25.5%と最も高く、「地震や台風などの災害が不安」が18.0%で2位。市町別では、御殿場市の「安心した医療体制が確立されていない」が21.1%、小山町の「少子高齢化などを背景に人口減少が予想されるなど、まちの将来が不安である」が20.1%と他の市町よりも高い。



上記、平成23年度において実施した住民アンケート結果や2章の中で述べてきた本圏域の概要等から広域連携ビジョンを策定する上での主な課題として下記のようなものが考えられます。

圏域の課題



**東海地震や富士山噴火
などの大規模な
自然災害への対応**

富士山麓にある本圏域は、駿河トラフ・南海トラフや相模トラフ沿いで発生する地震や富士山噴火への対応が検討される地域であり、防災対策の推進が重要なテーマとなっています。

**中心市街地の活性化・
まちの賑わい向上**

本圏域内の中心市街地は、モータリゼーションの進展、ライフスタイルの多様化、大型店の郊外進出などにより求心力を失い、駅前の商店街はシャッターを閉じている店が多く、日中の人通りはほとんど見られない状況になっています。

**富士山を初めとした
豊かな観光資源の
活用促進**

本圏域は富士山の世界文化遺産登録を追い風に注目度が高まっていますが、首都圏でのアンケート調査によると、富士山麓での観光都市と言えば山梨県のイメージが強く、静岡県側は宿泊施設不足などを理由に観光認知度は低迷しています。

**医療・福祉分野施設
の充実**

地方を中心に多くの病院で医師不足や病院経営難が原因で、診療科の一部を閉鎖するといった状況が続いていますが、本圏域においても、特に駿東地区にて医療施設不足の声が上がっており、圏域全体として医療・福祉分野の拡充が求められています。

**少子高齢化と
人口減少への対策強化**

人口減少時代に突入し、他地域同様加速する少子高齢化と流出する人口によってまちの将来が心配されています。

富士山麓の環境改善

富士山周辺道路における不法投棄、ニホンジカによる森林の食害、統一感のない看板・広告の乱立、開発による森林の減少、地下水の汚染や枯渇の懸念、オフロード車の乗り入れ、植生の変化による希少動植物の保護・保全など多くの課題が山積しています。

**本会議ほか
広域行政連携活動の
PR強化**

アンケート結果の中では、「富士山ネットワーク会議を知らない人」が過半数、「広報紙で特集を見ていない人」が6割以上もいたことから、知名度が低く、まだまだ情報発信が足りていません。

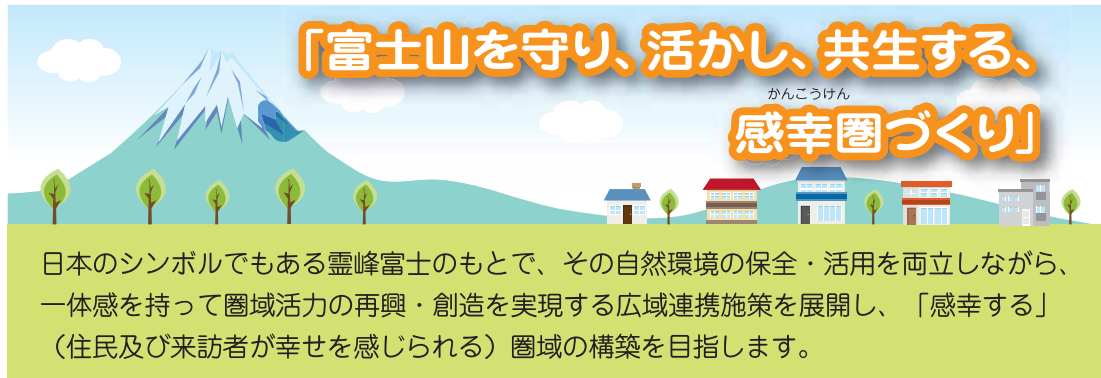
**インフラ整備と
公共交通の利便性向上**

予想される自然災害時の緊急輸送路としての広域幹線道路の完成と身延線や御殿場線などの公共交通の利便性向上が求められています。

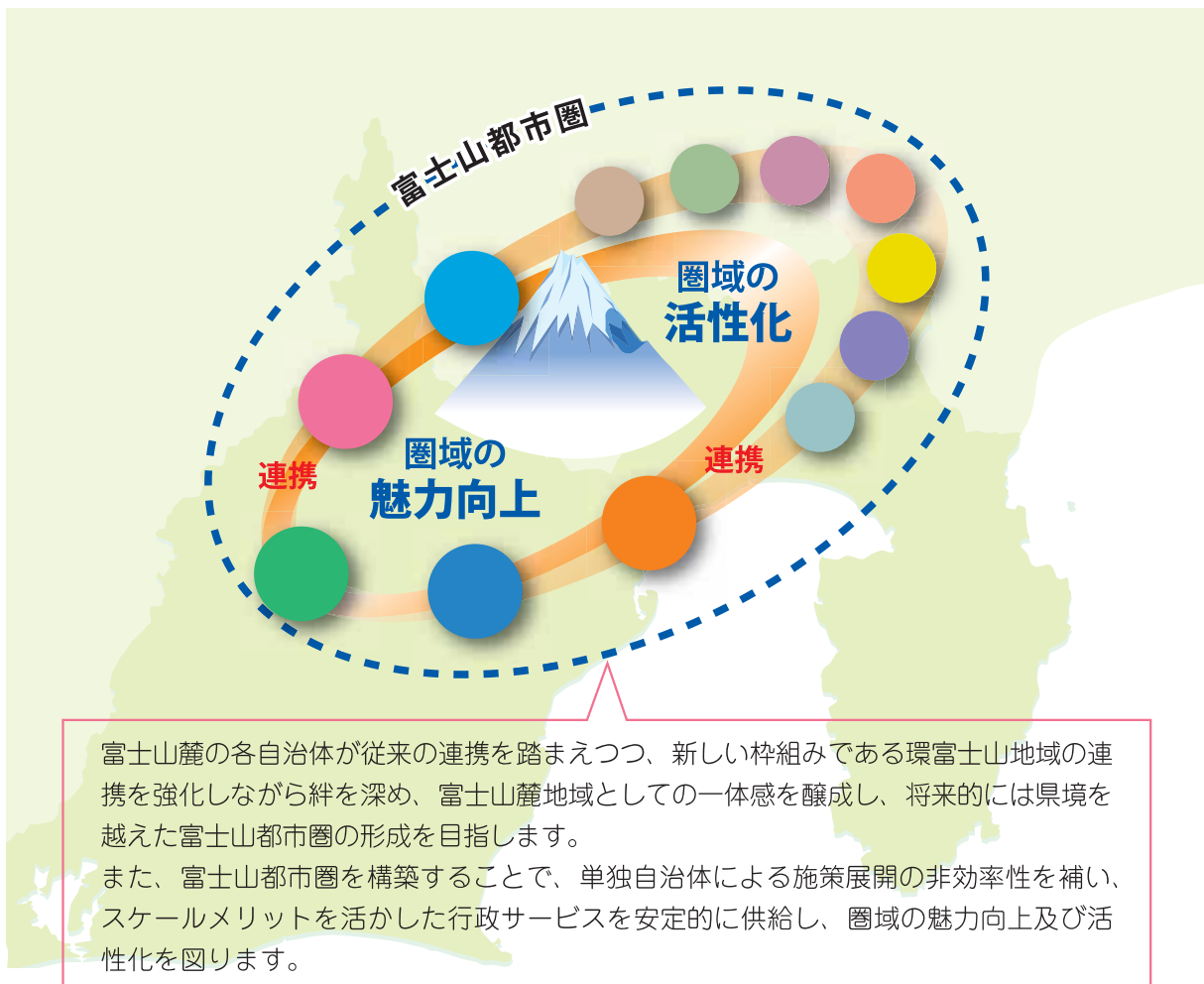
基本構想

【1】統一テーマ

本圏域ビジョンの統一テーマは下記のとおりとします。



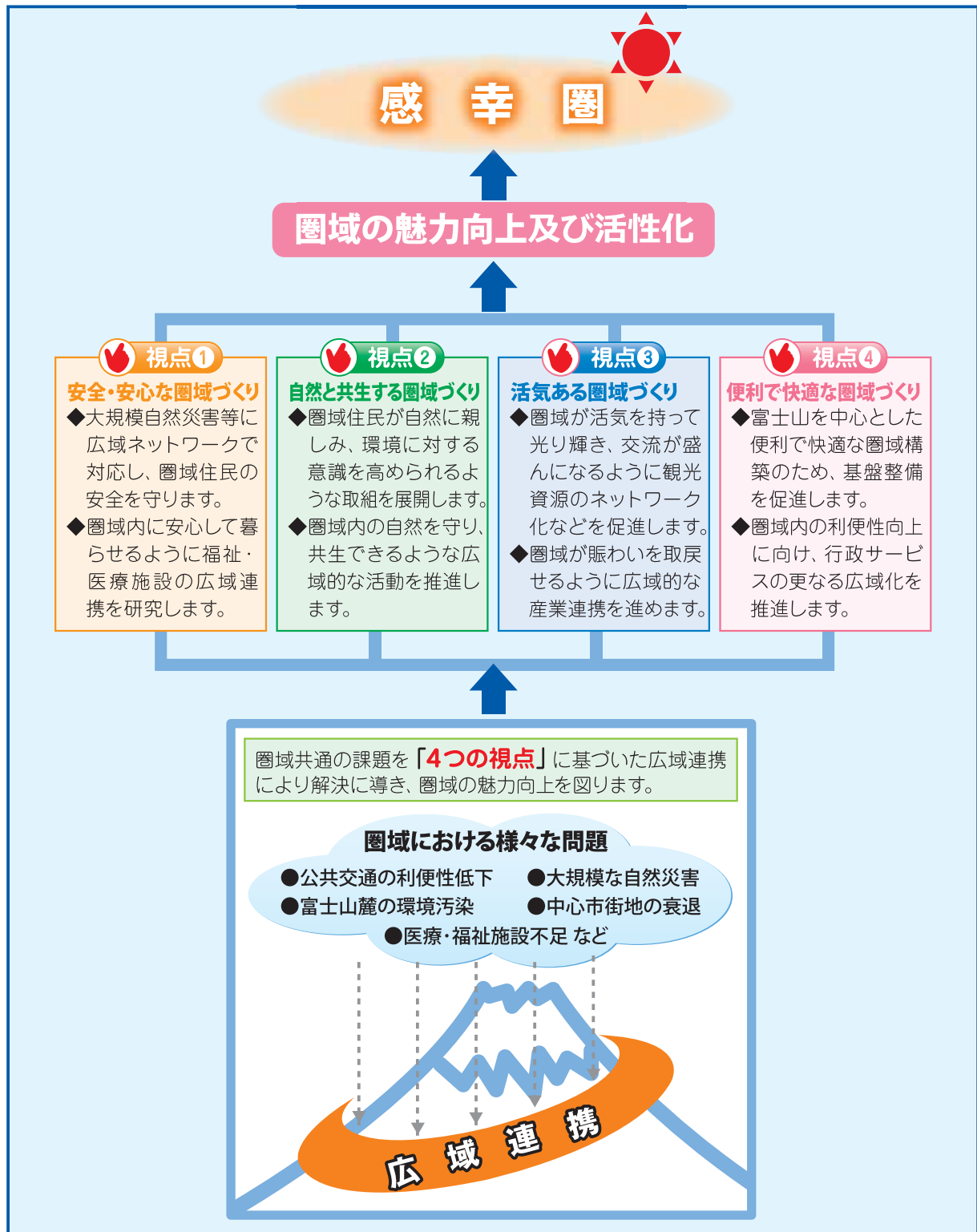
【2】目指す圏域像(イメージ)



圏域の目指す将来像

【3】圏域づくりの視点

2章で説明した圏域を取り巻く様々な課題に対応するため、下記4つの視点から圏域の将来像の実現を図ります。



1 基本計画

【1】連携事業の推進

多様で複雑な地域課題や単独では解決が困難な地域課題も、意識を同じくする市町が協力・協調することでより効果的、効率的に課題の解決や施策の実現を図ることができ、また、市町が相互に活発な交流をすることによって、常に新しい視点と活力が導入され、自らの持つ独自性を再認識することができます。

圏域全体の発展と魅力の向上を目指し、市町それぞれの長所を活かし、また、弱点を補いながら連携して事業を推進していきます。

■各分野の施策・事業の方向

		現状と施策・事業の方向性	施策・事業の体系 施策・事業主体となる研究会
<div style="text-align: center;">  視点① 安全・安心な圏域づくり </div>		<p>本圏域は、東海、東南海、南海の3連動地震や富士山噴火が懸念される地域であり、早急な防災対策が重要なテーマとなっています。富士山噴火や大規模地震の被害は甚大となることが予想され、状況によっては他市町等への広域避難が必要となる可能性があります。そのため、富士山麓で連携した安心・安全な地域づくりを目指し、今まで以上に広域連携や広域協定などの強化を図ります。</p>	<p>富士山火山や大規模地震に対応する広域的な避難計画などの構築</p> <p>防災研究会</p>
		<p>東日本大震災の教訓から、多くの自治体において災害復旧や被災者支援のため災害時相互応援協定を結ぶなど広域連携の取組が進んでいます。突発型地震以外の自然現象は、ある程度の予測や予知が可能であることから、気象や避難に関する情報の迅速な伝達体制の構築を進めると共に津波に備えた防災・減災の地域づくりの見地から沿岸部と内陸部をつなぐ基軸インフラの整備促進や実効性の高い相互支援体制の構築を図ります。</p>	<p>情報伝達体制の広域化及び沿岸部と内陸部の相互支援体制の構築</p> <p>防災研究会</p>
		<p>本圏域は、特に駿東地区にて医療施設不足の声が上がっており、圏域全体としても医療・福祉分野の拡充が求められています。安心できる医療・福祉サービスを提供するため、県境を越えた医療施設利用連携や情報通信技術を活用した病診・病病連携・遠隔地医療診断などの研究を進めます。</p>	<p>情報通信技術を活用した病診連携の促進と福祉医療施設の充実</p> <p>新設の検討</p>
<div style="text-align: center;">  視点② 自然と共生する圏域づくり </div>		<p>「富士山の恵み」に育まれ発展してきた本圏域は、世界遺産となった富士山の持続的な保全を目指し、各市町が協力して富士山麓の各課題の解決に取り組むことが求められています。希少動植物をはじめとする富士山周辺の自然の動態、地下水、森林破壊などの課題に広域的に連携して取り組み、効果的な情報発信を行うことにより、富士山に関する環境啓発を進めます。</p>	<p>富士山麓の広域的な環境保全活動の強化</p> <p>富士山の自然と環境を守る会</p>
		<p>富士山麓はニホンジカによる被害が深刻になっていますが、ハンターの減少・高齢化などで捕獲者の確保も難しくなっています。今後は車両乗入れによる森林の損傷を防ぎつつ、山麓一斉捕獲など、効率の良い捕獲作業を強化し個体頭数の削減に努めるとともに、住民自ら守るという共通認識を持ち「鳥獣を寄せ付けない、守れる集落づくり」へ向けた環境改善を図ります。</p>	<p>森林保護及び鳥獣被害対策の更なる広域連携促進</p> <p>富士山麓鳥獣被害対策会議</p>
		<p>世界遺産の富士山を活かした圏域への誘客に期待が集まっていますが、入山規制にかかる入山料や環境・山体の恒久的な維持管理方法、富士山麓の景観保全など課題は山積しています。「富士山を守り活かし共生する」の観点から自然観察会の広域共同開催やブナ原生林などの貴重な動植物保護、整備環境認識の共有化を図ります。</p>	<p>世界遺産、富士山の管理保存活動強化と共生事業拡充</p> <p>富士山の自然と環境を守る会 企画研究会</p>

連携した地域づくりの方針について

【2】各分野の施策・事業の方向性

本会議では広域連携事業の実施主体として、防災や環境、観光など9分野の専門研究会を組織しており、今後も本圏域の基本構想を具現化するための取組を展開していきます。また、既存の研究会に属さないような課題に対しては新たな研究会の設置を検討し、その解決を図ります。（下図参照）



視点③ 活気ある 圏域づくり



視点④ 便利で快適な 圏域づくり



現状と施策・事業の方向性	施策・事業の体系 施策・事業主体となる研究会
<p>長引く不況による消費者の買い控えやインターネット通販の拡大など、中心市街地や産業界を取り巻く環境は厳しい状況が続いています。本圏域では「富士のふもとの大博覧会」を開催し、産業の育成・発展を図っていますが、既存産業の活力増進や産業支援強化に結び付けていくため、より広域なビジネスマッチングの手法を検討すると共に、中心市街地の復興に寄与できる取組を進めます。</p>	<p>広域イベント開催によるビジネスマッチング等産業連携促進</p> <p>産業研究会</p>
<p>本圏域は各所に構成資産が存在していることや、今後予定されている、新東名高速道路の御殿場JCT以東の全面開通により、今後、圏域内の交流人口は大幅に増加することが見込まれています。世界遺産の富士山を中心とした、各市町の観光資源（観光スポット、イベントなど）の情報を集約し、スマートフォンなどの新たな情報発信ツールを活用しながら本圏域の魅力の増幅を図ります。</p>	<p>富士山周辺の観光資源のネットワーク化と観光情報発信強化</p> <p>観光研究会 広報研究会</p>
<p>広域的に連携したスポーツ関連事業は、多くの人を国内外から集め、経済的にも大きな効果が見込めると同時に、人々に明るさと元気を与える力があります。富士山を初めとする豊かな地域資源を活かしたスポーツイベントを広域連携により開催し、圏域の活性化と賑わい創出を図ります。</p>	<p>スポーツイベントの広域展開とそれらを利活用した圏域の賑わい創出</p> <p>スポーツ事業研究会</p>
<p>富士山の世界遺産の登録により、本圏域に今まで以上の注目が集まっています。首都圏と中京圏の中間に位置する地理的優位性から本圏域には企業が進出していますが、南海トラフの巨大地震や富士山の噴火等、大規模災害の発生が脅威となっていることから、災害時の緊急輸送路となりうる国道469号など広域幹線道路の整備を促進します。</p>	<p>国道469号など広域幹線道路のインフラ整備促進</p> <p>国道469号(富士南麓道路)建設促進期成同盟会</p>
<p>公共交通は、生活の足として暮らしに欠かすことのできない機能であり、また、本圏域に訪れる方の重要な交通手段であることから、高齢化の進行や深刻化する地球環境問題に対応するとともに、来街者にも優しい圏域を実現するため、身延線や御殿場線などの公共交通の利便性向上を図ります。</p>	<p>身延線や御殿場線などの広域公共交通の利便性向上</p> <p>企画研究会</p>
<p>SNSなど情報化が著しく進展しており、インターネットなどを利用した申請や手続の普及が進んでいることから、公共施設の広域利用などの行政サービスの広域化を推進し、だれもが、身近に、簡単に、安全に利用できるサービスの提供の充実を図ります。</p>	<p>公共施設の広域利用など行政サービスの広域化推進</p> <p>企画研究会</p>

2 ビジョンの推進体制と将来的な方向性

【1】富士山ネットワーク会議

世界に誇る富士山をまちづくりの中心に据えている静岡県側の環富士山地域4市1町が共通課題となる様々な分野において広域に連携し、よりよい住民サービスの永続的な展開と構成する自治体の発展に寄与することを目的として発足した「富士山ネットワーク会議」。

本会議については、ネットワーク圏域の重要な指針を示す首長会議とその事前準備会議である幹事会、そして連携事業の実施主体である研究会で構成されており、本圏域の課題解決に取り組む研究会は基本計画【2】各分野の施策・事業の方向性で述べたとおり、企画・広報・防災・富士山の自然と環境を守る会・産業・観光・富士山麓鳥獣害対策会議・スポーツ・国道469号建設促進期成同盟会の9分野と多岐に渡っています。

広域連携ビジョンの推進については、本会議が核となって各関係団体の協力を得ながら、上記研究会による事業等により将来像の具現化を図り、圏域の活性化へ繋げていきます。

富士山ネットワーク会議ロゴマーク

4市1町の広報紙で公募し集まった46点の中から選定したロゴマーク。

デフォルメした富士山を輪が囲むデザインで輪に連携や協調の意味を含めたほか、輪を右肩上がり配して発展を象徴。色彩は青と緑のグラデーションでまとめ、豊かな自然を表現した。



富士市から望む富士山

【2】各研究会の取組事業

① 企画研究会

富士山ネットワーク会議では富士山を取り囲む自治体が広域な連携をすることによって、将来的な富士山エリアの展望を視野に入れ、本圏域及び各地域の活性化に寄与する取組を展開していますが、いまだ富士地区、駿東地区といった広域行政圏などの枠組みの影響も強くあり、地域ごとの異なった課題の存在や、地域間の馴染みが薄いといった現状があります。

また、本研究会において平成23年度に実施した住民アンケートでは、本会議や広域連携について関心はあるが、広域連携のメリット・デメリットがわからないなど、情報量の少なさや周知不足が伺える結果となっており、今後は本会議の活動や広域連携によって将来何が生み出されるのか、この地域がどうなっていくのかなどの明確な将来像を示す必要性が浮き彫りになりました。

地方分権時代の中で、地域主権や道州制導入、基礎自治体のあり方についても様々な課題が議論されており、一方では広域的道路網の整備や高速化する公共交通網により、住民の生活圏は行政区域を越えた広域的な生活圏形成へ変化を続けています。

今後は、地域主権の進展により、基礎自治体の果たす役割がますます大きくなることが予想されるため、生活圏域が重なる近隣市町村との間で、単独では非効率な行政運営をお互いに補完するための広域ネットワークが今まで以上に重要となり、圏域の特徴、これまでの経緯、圏域が抱える課題や問題点（一般的な少子高齢化、人口減少、産業の空洞化、自治体間競争などの社会経済問題、環境や防災、世界遺産登録など）に対し、富士山を囲む自治体が情報交換し、個々での実施が困難であれば連携することで、地域課題に取り組み、住民の求める行政サービスを主体的に展開できる仕組みが求められます。

富士山を取り巻く各自自治体が自発的に連携し、共通する課題を共有・解決していくことで、個々と全体を活性化させていくため、以下の事業に取り組みます。

- 富士山ネットワーク会議の継続運営と圏域の将来像実現に向けた取組の推進・調整
- 各研究会事業への支援と調整
- 山梨県側を含む環富士山圏域形成への取組
- 圏域課題の洗い出し及び調査研究
- 本会議の活動と広域連携のPR方法検討
- 広域圏域で担うべき事務研究のための合同研修の開催
- 世界遺産、富士山の保存管理へ向けた取組
- 広域公共交通の利便性向上への取組
- 共通課題解決に向けた国県への働きかけ

② 広報研究会

富士山ネットワーク会議の連携を広く周知し、親んでもらうため公募により「ロゴマーク」を作成。また、構成市町の広報紙で本会議による住民アンケートの結果や共通のお知らせなどを掲載してきました。

アンケート結果の中では、「富士山ネットワーク会議を知らない人」が過半数、「広報紙で特集を見ていない人」が6割以上もいたことから、知名度が低く、まだまだ情報発信が足りないことが課題として挙げられます。しかしその一方、富士山ネットワーク会議の活動に対して6割以上の方が「地域全体の活性化につながる」などの理由から「期待している」ことが伺えます。

富士山の世界遺産登録や富士登山客の増加など、ますます富士山への関心が高まっている中、富士山麓の様々な魅力を国内外に向けて発信し、富士山麓の観光や防災などの情報提供や、富士山ネットワーク会議構成市町が連携して行っていく事業などを構成市町が協力して取材をし、共同で共通紙面を掲載するなど、連携をますます深めていく必要があると考え、以下の事業に取り組みます。

- 各市町の情報の共有
- 広報紙への統一特集紙面の作成、掲載
- 「ウルトラトレイル・マウントフジ」や「富士のふもとの大博覧会」など
富士山ネットワーク会議関連行事の情報提供
- 取材の協力、連携
- ウェブサイト、フェイスブックなどインターネットによる共通情報の発信



各市町の広報紙

③防災研究会

富士山麓にある本圏域は、駿河トラフ・南海トラフや相模トラフ沿いで発生する地震や富士山噴火への対応が検討される地域であり、防災対策の推進が重要なテーマとなっています。

歴史的には、富士山の宝永噴火で多くの被害を受けた地域ではありますが、先人達が見事な復興を成し遂げ、それ以降は富士山がもたらす自然の恵みを活かし、今日まで発展してきました。今を生きる我々は、有事の際、自然災害からの人的被害を最小限にとどめるための対策を広域で実施すべきと思われます。

幸いなことに、突発型地震以外の自然現象は、ある程度の予測や予知が可能と考えられます。そのため、気象や避難に関する情報の迅速な伝達体制の構築が重要であり、特に、富士山周辺の観光客に対しての情報提供は、広域による協力が極めて重要です。

また、地域住民においては、災害発生時の実際的な避難計画（避難マニュアル）の策定と、その周知・徹底が必要ですが、被害想定区域が広域であるため、住民やそこに滞在している観光客の全てをいかに避難させるかが共通の検討課題です。

富士山噴火や大規模地震の被害は甚大となることが予想され、状況によっては他市町村への広域避難が必要となる可能性があります。そのため、今まで以上の広域連携や広域協定などを強化し、富士山を取り巻く市町村で連携した安心・安全な地域づくりが必要と考え、以下の事業に取り組みます。

- 富士山火山対策における広域避難計画の作成
- 県及び関係市町村共通の地図の作成
- 広域にわたる情報伝達体制の再構築
- 市町村相互の避難所などの提供等
- 山梨県（環富士山）との広域連携
- 大規模地震における広域避難計画の作成
- 沿岸地域と内陸部の相互支援体制



静岡県・富士宮市・富士市総合防災訓練

④ 富士山の自然と環境を守る会

本圏域は、温暖な気候や豊富な地下水を始めとする「富士山の恵み」に育まれ発展してきました。

しかし、科学技術の発展に伴い、生活の利便性を追求した結果、富士山周辺の環境に対し多大な負荷を与えています。この圏域では、過去には水質汚濁や大気汚染などの厳しい公害問題に直面したほか、近年においても、富士山周辺道路における不法投棄、ニホンジカによる森林の食害、統一感のない看板・広告の乱立、開発による森林の減少、地下水の汚染や枯渇の懸念、オフロード車の乗り入れ、植生の変化による希少動植物の減少・消失など多くの課題が山積しております。また、世界遺産としての保全のあり方についても検討を進めなければなりません。

世界遺産となった富士山の永続的な保全を目標の軸として、環境保全活動を中心に、各市町が協力して諸課題の解決に取り組んでいくことが必要です。

具体的には、希少動植物をはじめとする富士山周辺の自然の動態、地下水、森林破壊など富士山を取り巻く様々な課題について、関係する市町が広域的に連携して取り組むことにより、効果的な対策を図ります。また、各市町の有する様々なチャンネルを活用して情報発信を行うことにより、富士山に関する環境啓発を広域的に実施することが可能となります。

富士山ネットワーク会議の母体となった「富士山の自然と環境を守る会」は昭和47(1972)年に発足以来、富士山周辺の自然・環境保全の広域的な取組の受け皿としての役割を果たしてきましたが、今後も富士山麓の自然を守るため、以下の事業に取り組みます。

- 富士山の環境保全活動
- 自然観察会の共同開催
- ブナの原生林などの貴重な動植物を連携して保護、整備
- 環境認識の共有化、情報交換
- 環境課題の調査及び研究



ブナ原生林

⑤ 産業研究会

本圏域内の中心市街地は、モータリゼーションの進展、ライフスタイルの多様化、住宅の郊外への拡散による都市のスプロール化、大型店の郊外進出などにより求心力を失い、駅前の商店街はシャッターを閉じている店が多く、日中の人通りはほとんど見られない状況になっています。

また、長引く不況による消費者の買い控えやインターネット通販の拡大など、中心市街地を取り巻く環境はかなり厳しく、既に拡散してしまった都市構造において、中心部に人を呼び込むための特効薬はないのが現状です。

そのため本研究会では「富士のふもとの大博覧会」を開催し、地元産業の育成・発展を図っており、来場者は年々増加するなど好評を博しています。しかしその一方で、グルメイベントとしての色合いが強い事業であることから、本圏域での産業の発展に直接的な効果を与えているとは一概に言えない状況です。

「富士のふもとの大博覧会」を今まで以上に産業振興に結び付けていくため、ビジネスマッチングの具体的な手法を検討すると共に、中心市街地の復興に寄与できる取組の模索を進めます。

また、環富士山地域における新たな価値の創造に向け、富士山の世界遺産登録などを契機として広域的な観光圏、商圈の研究・PRを行い、地域に根ざした産業振興を強力に推し進めるべく、以下の事業に取り組みます。

- ビジネスマッチングとしての「富士のふもとの大博覧会」の開催
- 富士山の世界遺産の構成資産周遊ツアーの企画研究
- 富士山の世界遺産登録に合わせた富士山関連グッズや商品の検討
- 各市町の構成資産と商業施設を結ぶバス路線の開拓
- 山梨県側市町村との商工業面での連携強化
- ポータルサイトの開設等、情報発信の強化



富士のふもとの大博覧会

⑥ 観光研究会

本圏域においては、富士山をはじめとする観光名所が数多く存在し、観光客が多く訪れています。また、東名高速道路や国道246号及び469号など、国内の東西を結ぶ重要な交通路線があり、人やモノの流れが活発です。平成24(2012)年4月、三ヶ日JCTから御殿場JCTの区間において待望の新東名高速道路が開通し、新たな人やモノの流れが生じてきています。さらに、平成25(2013)年6月には富士山の世界遺産への登録が実現しました。本圏域の各所に構成資産が存在していることや、今後予定されている新東名高速道路の御殿場JCT以東の全面開通により、国内外から大勢の観光客がこの地を訪れることが予想されるなど、今後、本圏域の交流人口は大幅に増加することが見込まれています。

このような中、単独の市町での観光誘客だけでなく、市町の枠を超えた観光誘客の取組はますます重要となってきています。これまで、4市3町（富士市、富士宮市、御殿場市、裾野市、小山町、長泉町、清水町）で構成する富士地区観光協議会では、静岡県観光協会と協働し首都圏をはじめとする大都市圏にて観光キャンペーンを行ってきました。

広域連携を活かした、より訴求力の高いプロモーション活動を行っていく必要があります。世界遺産に登録された富士山を中心とした、各市町の観光資源（観光スポット、イベントなど）の情報を集約し、スマートフォンなどの新たな情報発信ツールを活用しながら魅力の増幅を図り、国内外に発信するため、以下の事業に取り組みます。

- スマートフォンアプリケーション「ふらっと案内」を用いた

広域観光情報発信事業

- 合同富士山写真展「わがまち富士山写真展」の開催
- 静岡県観光協会との合同キャンペーン等への参加



富士地区観光協議会による観光キャンペーン

⑦ 富士山麓鳥獣被害対策会議

富士山麓ではニホンジカによる被害が深刻になっています。本圏域での適性頭数は約600～1,000頭ですが、平成22(2010)年の推定頭数が約14,000頭と過大な生息状況となっています。そのため餌を求め、造林したスギ、ヒノキの幼木枝葉の食害、樹皮接触による損害、稲、牧草等の食害など農林業被害は多岐にわたっています。シカの採食植物種は1,000種類が確認されており、食べない植物を断言することは難しく、食物不足による個体数の削減は望めません。個体数の削減は狩猟と有害鳥獣捕獲及び管理捕獲により科学的・計画的に行うほかないのが現状です。

しかし、本圏域はなだらかな地形のため猟犬を使用した巻狩りには適していないため、捕獲が進みにくく、狩猟による捕獲も、鳥獣保護区、国有林及び東富士演習場と立ち入り規制が設けられているため、進んでおりません。

また、ハンターの減少・高齢化などで捕獲者の確保が難しくなると予想されており、その他には捕獲した個体の処理、処分地の確保の問題も挙げられます。

このような状況の中、平成24(2012)年4月に県が策定した「特定鳥獣保護管理計画（ニホンジカ）（第3期）」に沿って今後の活動を検討し、狩猟と有害鳥獣捕獲及び管理捕獲により個体頭数の削減に努めるとともに、住民自ら守るという共通認識を持ち「鳥獣を寄せ付けない、守れる集落づくり」へ向けた環境改善を進めるため、以下の事業に取り組みます。

- 連携した一斉捕獲など、効率の良い捕獲作業の検討
- 県が実施する管理捕獲への積極的な参加
- 捕獲機材（わな、防護柵等）の導入による捕獲体制の強化
- 管内市町の職員による鳥獣被害対策実施隊設置の検討
- 狩猟免許取得者に対する取得経費の支援（助成制度）



富士山麓の鹿

⑧ スポーツ事業研究会

平成23(2011)年に「スポーツ振興法」が「スポーツ基本法」へ全面改正され、その前文では「スポーツ権」が明記されるなど、スポーツの重要性は、全国的に高まっています。特に東京オリンピック・パラリンピックの開催が平成32(2020)年に決定し、スポーツに対する関心がさらに大きく膨らんできています。

こうした中であって、富士山麓の4市1町は、富士山という世界の宝である地域資源を有し、かつ首都圏近郊に位置し、情報や産業、交通基盤が充実した地域であり、県内外の地域との交流や相互の連携を図りやすいという好条件に恵まれています。このような優位性を活かさずにいます。

広域的に連携したスポーツ関連事業は、各市町において事業の交流も少ないのが現状ですが、スポーツ関連の大会等の開催は多くの人を国内外から集め、経済的にも大きな効果が見込めると同時に、人々に明るさと元気を与える力があります。

本圏域の持つさまざまな優位性を、求心力のあるスポーツ関連事業を通じて活かすため、連携を図る中で、それぞれが不足しているモノ（施設・人材など）を相互補完し、エリア全体と各市町を活性化させるようなスポーツ及びアクティビティイベント等の事業の創出が広く求められています。

国内外へ本圏域の魅力を発信し、世界に誇る富士山のふもとでのイベント、大会であることを国際的な付加価値に高め、エリア全体とそれぞれの地域の活性化に寄与していきます。

また、スポーツに対する関心を高めるとともに競技力の向上につなげ、子どもから大人まで多くの人々に夢と希望を抱く機会を創出するため、以下の事業に取り組みます。

- 「ウルトラトレイル・マウントフジ」の大会支援、常設看板の検討
- 大会開催支援に向けた財源確保手法の研究
- 広域スポーツイベント支援マニュアルの作成
- 国際大会運営に対応可能なイベントを支える人材の育成
- 本圏域で体験可能なアクティビティに特化したスポーツ人材のデータベース化
- トレイルラン、バイク、アウトドアヨガ、ノルディックウォーキング等人気の高い
アクティビティイベントの開催誘致・支援
- 有名アスリートとの交流イベントの実施
- 情報共有及び情報発信の研究による広報力強化
- 公の施設の広域利用に関する協定の検討



ウルトラトレイル・マウントフジ

⑨ 国道469号(富士南麓道路)建設促進期成同盟会

国道469号(富士南麓道路)は、静岡県御殿場市の国道138号から富士山南麓及び山梨県峡南地域を横断し、山梨県南部町内の国道52号に接続する道路です。

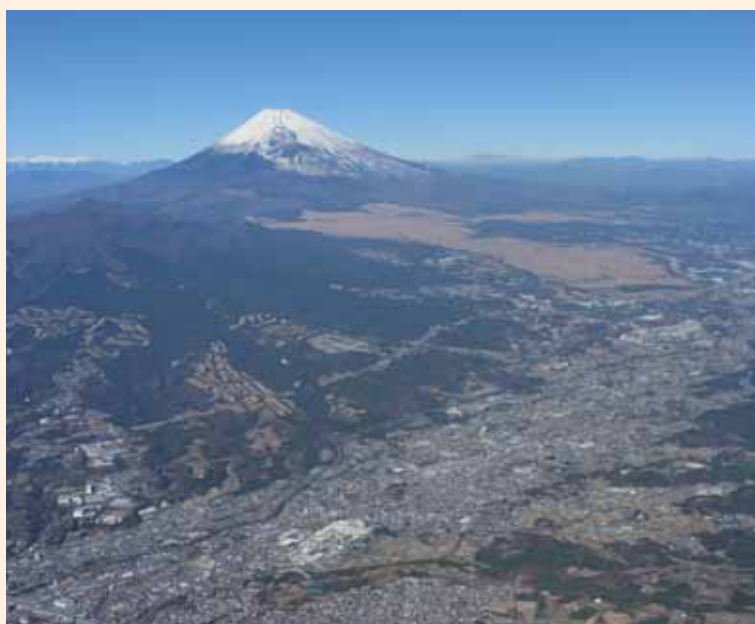
全体計画としては、起点部を小山町内の国道246号中島インターチェンジに接続し、終点部を中部横断自動車道と結ぶ構想です。新東名高速道路や東名高速道路及び国道1号の代替道路としての役割を持つとともに、静岡・山梨両県の地域の活性化や交流の基盤づくり、また予想される東海地震など災害時の緊急輸送路として、防災面からも非常に重要な機能を持つ道路であるため早期の整備促進を図っているところです。

全体の改良済み進捗は約3割程度であり、裾野市、御殿場市、小山町内や富士宮市の西部地区は、ルートが決定されていないことが大きな課題となっています。

なお、このほど富士山が世界遺産に登録され、富士山に今まで以上の注目が集まっていますが、そのような中で、富士山を取り巻く基幹道路として、国道138号、国道139号及び国道469号は「環(ぐるり)富士山風景街道」としての位置付けがされているため、国土交通省、静岡・山梨両県や関係する市町村及び地域の推進体制も構築されています。

本同盟会は、昭和59(1984)年に結成されており、それ以来、国道469号(富士南麓道路)の整備がより一層促進されるよう要望活動などを行っています。そのため4市1町の道路整備に対する思いは同一であり、体制も明確です。今後も、以下のとおり要望活動に取り組みます。

● 国道469号の整備促進に向け、静岡県、山梨県や関係機関に対する強力な要望活動の実施



富士山と国道469号

【3】連携の推進・強化と将来的な方向性

第1章富士山周辺地域の連携の必要性でも述べたとおり、地方分権・地域主権の進展などにより、自治体間の広域連携の必要性はますます高まるものと思われます。

国においても、地方分権を推進するに当たり、市町村合併や定住自立圏などの広域連携を進める一方、地方自治の充実強化を図り、自立的で活力のある圏域を実現するとともに、国と地方を通じた効率的な行政システムを構築するという道州制も視野に入れているところです。

現在議論されている道州の区域は、どれも富士山を分割するものとなっておりますが、この道州制の区域区分の枠組みについても、日本の象徴であり、かつ、世界遺産である富士山を意識した、環富士山地域としての枠組みなども求められると思われます。

環富士山地域とは、もちろん県境を越えた山梨県・静岡県の両県の富士山麓地域を指しますが、今後、上記の道州制の議論も含め、山梨県側との更なる連携の強化が必要であることは言を待ちません。富士山ネットワーク会議においても、山梨県側との連携を深めるため、会議への参加を呼び掛け、真の環富士山地域ネットワーク会議の実現を目指したいと考えています。

また、山梨県との関係性の一例として、富士山の噴火や巨大地震に備えた防災・減災の連携については、災害時の富士山一帯に広がる北富士演習場・東富士演習場に属する自衛隊との相互支援体制も視野に入れた連携体制を構築することが必要です。

さらに、自治体間の連携のみならず民間レベルでの連携も本圏域の活性化には欠かせません。特に富士山の世界遺産登録で増加が見込まれる本圏域への来訪者の受け入れでは、民間の観光施設、旅行者、宿泊業者等の民間のネットワークが非常に重要であり、旧来から賑わいを博しているご当地グルメなどの活動についても更なる連携強化が望まれます。

こうした経済面の活動だけでなく、ウルトラトレイル・マウントフジをはじめとするトレイルランニングやサイクリングなどのスポーツ振興に関する活動や自然保護、環境保全等の市民グループやNPOなどの活動についても、広域的な横のつながりが求められています。

本圏域の広域連携を進める上で最も大切なことは、本圏域に暮らす住民一人ひとりの意識の中に、富士山を核としたまちづくりのイメージを持っていただくことだと考えます。そして現代を生きる私たちは、「富士山の世界遺産登録」という富士山とその文化的価値を「守り、伝え、高める」という意識が醸成されるまたとない機会に立ち会っています。

以上のような個々の意識と官民による連携が相まることにより、環富士山地域での広域的なまちづくりが今まで以上に発展することが期待できます。



剣ヶ峰を望む



富士宮市から



富士市から



裾野市から



御殿場市から



小山町から

1 各市町データ

	富士市	富士宮市
人口	259,339人	135,492人
面積	245.02km ²	388.99km ²
年間平均気温	16.5℃	15.8℃
年間降水量	1,935.0mm	1,978.5mm
特産品	家庭紙、富士のやぶ北茶、富士梨、シラス	地酒、蒸し焼きそば、乳製品、虹鱒製品、たけのこ
市町の木・花・鳥・魚	クスノキ／バラ	かえで／ふじざくら／ひばりにじます
予算規模	一般会計 808億円 特別会計 482億7,512万円 企業会計 288億1,412万円	一般会計 392億9,000万円 特別会計 284億9,580万円 企業会計 127億6,945万円
職員・議員数	市職員数 2,496人 市議会議員数 36人	市職員数 1,392人 市議会議員数 21人
駅の数	JR 9 駅／岳南鉄道 10 駅	JR 6 駅
自動車台数	213,224台	114,616台
医療施設数	病院 13 一般診療所 175 歯科診療所 131	病院 4 一般診療所 92 歯科診療所 61
医師・歯科医師数	医師 355人 歯科医師 165人	医師 177人 歯科医師 66人
下水道普及率	71.60%	50.90%
ごみの量 (焼却、埋立、再利用、火災ごみ)	85,118 t /年	43,742 t /年
学校等の数	保育園 市立19園 私立15園 幼稚園 市立11園 私立15園 認定こども園 私立3園 小学校 市立27校 中学校 市立16校 高等学校 市立1校 県立4校 私立1校 大 学 私立1校 特別支援学校 県立1校 看護専門学校 市立1校 私立1校 その他専修学校 私立3校	保育園 市立13園 私立6園 幼稚園 私立10園 認定こども園 私立1園 小学校 市立23校 中学校 市立13校 私立1校 高等学校 県立4校 私立1校 特別支援学校 県立1校

御殿場市	裾野市	小山町
89,318人	53,814人	19,966人
194.85km ²	138.17km ²	136.13km ²
12.8℃	14.8℃	13.2℃
3,422.5mm	1724.5mm	2,398.0mm
自動車部品、わさび、水かけ菜、ハム、御殿場コシヒカリ	いちご、芝、すその水ギョーザ、モロヘイヤ、大和芋、たけのこ	コシヒカリ、水かけ菜、わさび
けやき／富士桜／くろつぐみ	すぎ／あしたかツツジ／うぐいす	ふじ桜／菜の花／うぐいす
一般会計 338億4,500万円 特別会計 155億6,100万円 企業会計 26億4,403万円	一般会計 193億4,300万円 特別会計 94億2,314万円 企業会計 12億8,400万円	一般会計 91億2,020万円 特別会計 38億5,555万円 企業会計 3億6,362万円
市職員数 646人 市議会議員数 23人	市職員数 430人 市議会議員数 21人	町職員数 218人 町議会議員数 12人
JR 3 駅	JR 2 駅	JR 2 駅
72,266台	43,152台	16,504台
病院 8 一般診療所 47 歯科診療所 39	病院 2 一般診療所 38 歯科診療所 20	病院 3 一般診療所 4 歯科診療所 6
医師 117人 歯科医師 45人	医師 68人 歯科医師 21人	医師 43人 歯科医師 10人
33.10%	33.70%	22.80%
29,671 t /年	17,342 t /年	7,866 t /年
保育園 市立 9 園 私立 8 園 幼稚園 市立 8 園 私立 2 園 小学校 市立 11 校 中学校 市立 6 校 高等学校 県立 2 校 私立 1 校 看護学校 私立 1 校 特別支援学校 県立 1 校	保育園 市立 5 園 私立 3 園 幼稚園 市立 6 園 私立 3 園 小学校 市立 9 校 中学校 市立 5 校 私立 1 校 高等学校 県立 1 校 私立 1 校	保育園 町立 4 園 幼稚園 町立 4 園 小学校 町立 5 校 中学校 町立 3 校 高等学校 県立 1 校

2 平成23年度 環富士山地域の広域連携に関する住民アンケート調査結果

調査の概要

1. 調査の目的

富士山ネットワーク会議に加入する4市1町の住民を対象に、広域的な生活圏についてなど、今後の広域行政を進めるための基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査事項

- (1) 回答者の属性について
- (2) 富士山ネットワーク会議について
- (3) 他市町とのつながり、市町村合併、広域連携、道州制について

3. 調査対象者及び調査方法など

- ①調査対象 8,300人：平成23(2011)年8月1日現在、富士市、富士宮市、御殿場市、裾野市、小山町に居住する20歳以上の市・町民
(富士市3,000人、富士宮市2,300人、御殿場市1,500人、裾野市1,000人、小山町500人)
- ②抽出方法 無作為抽出
- ③調査方法 郵送によるアンケート調査
- ④調査期間 平成23(2011)年8月15日(月)～9月4日(日)
(※調査期間後も、届いた分については、集計対象とする)

4. 回収状況

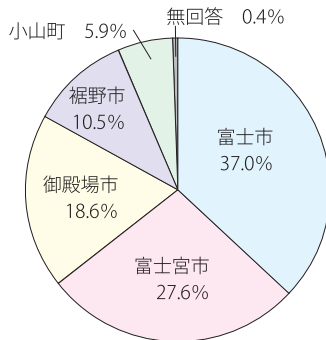
- ①配布数 8,300件
- ②回収数・回収率

	全 体	富士市	富士宮市	御殿場市	裾野市	小山町	無回答等
配布数	8,300	3,000	2,300	1,500	1,000	500	
回収数	4,306	1,595	1,189	800	452	253	17
回収率	51.9%	53.2%	51.7%	53.3%	45.2%	50.6%	

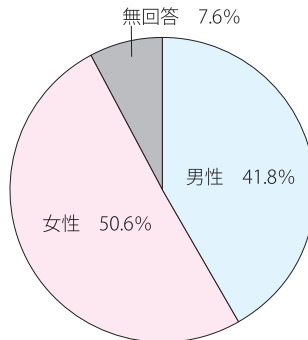
分析の結果

1. 回答者の属性について

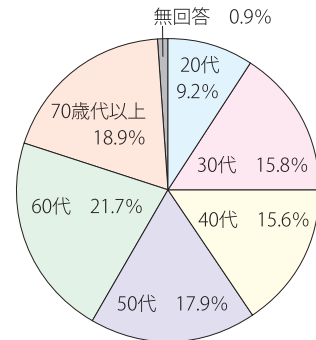
居住地



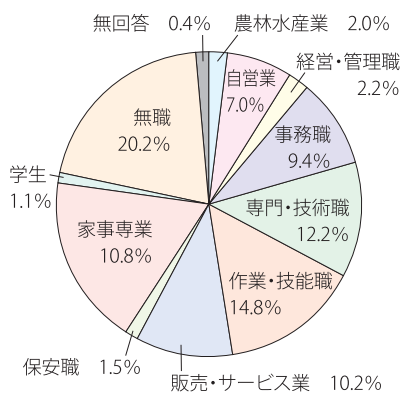
性別



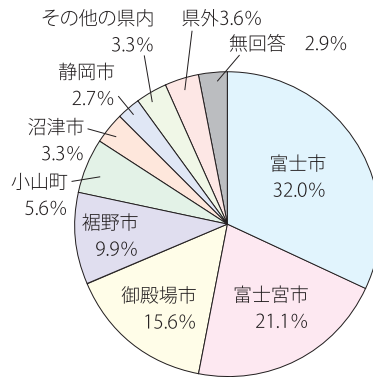
年齢



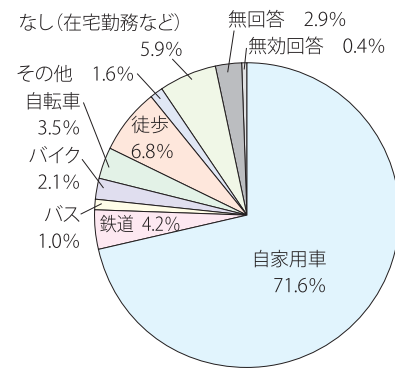
職業



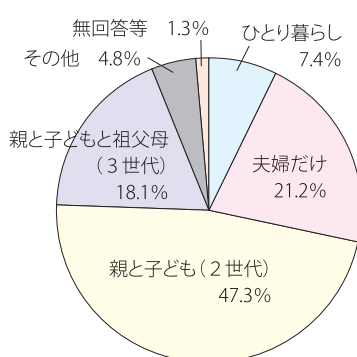
職場(通学地)



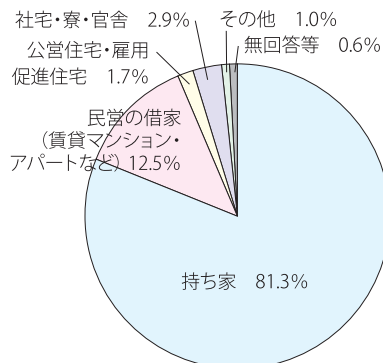
職場(通学地)への交通手段



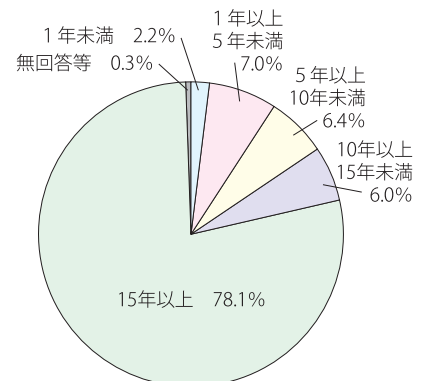
回答者の家族構成



住居形態



居住年数

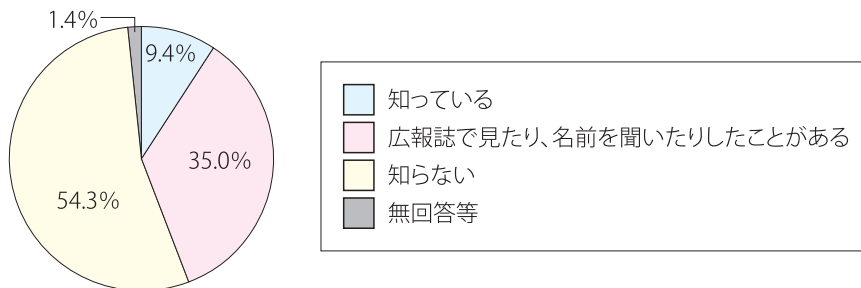


2. 富士山ネットワーク会議について (平成23年度環富士山地域の広域連携に関する住民アンケートより抜粋)

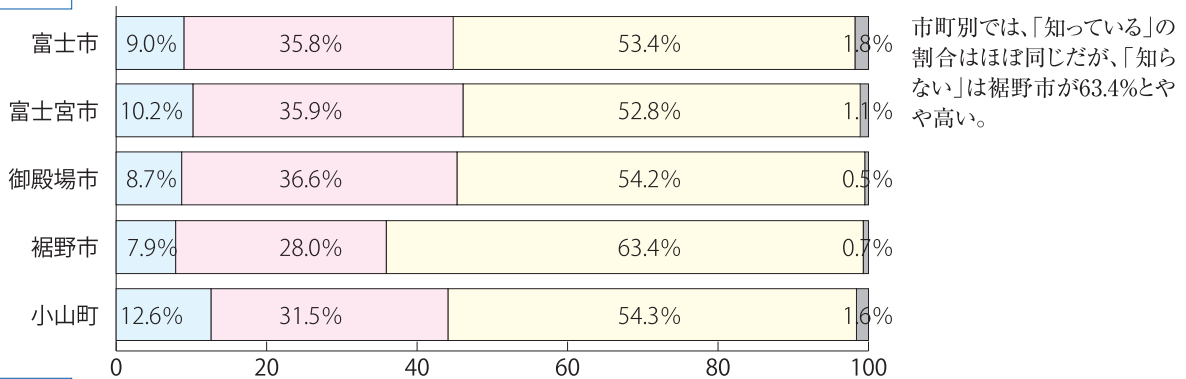
(1) 「富士山ネットワーク会議」の認知について

問1 富士山ネットワーク会議をご存じですか。(1つ)

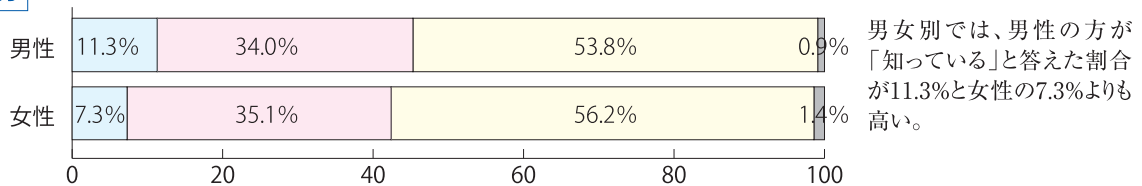
全体 「富士山ネットワーク会議」について、「知っている」が9.4%で、「知らない」が54.3%。



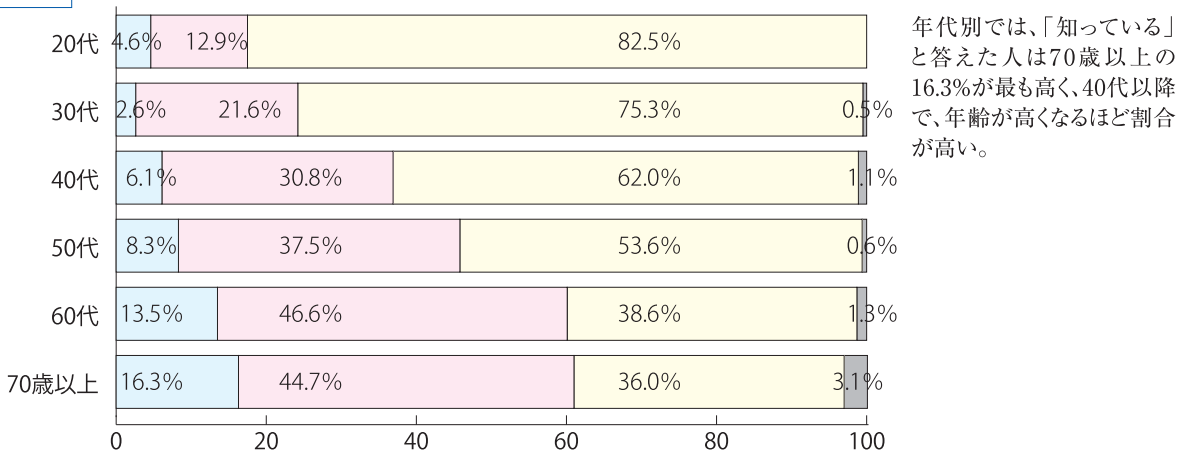
市町別



男女別



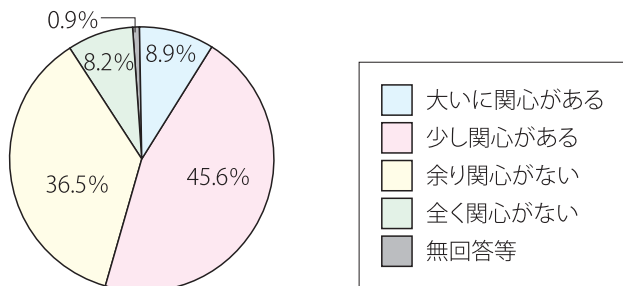
年代別



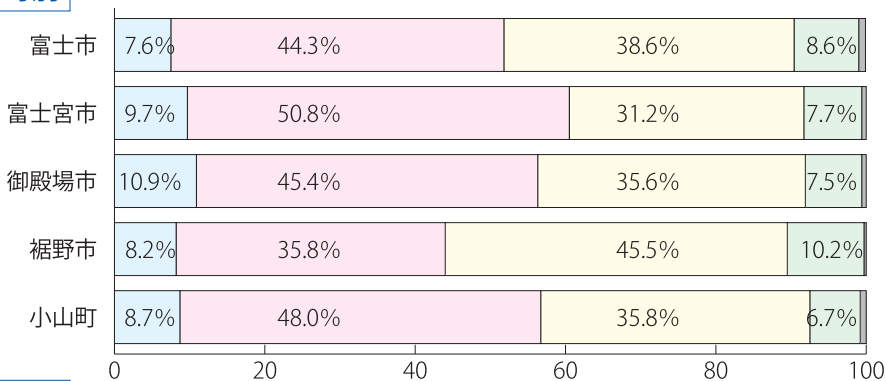
(2) 「富士山ネットワーク会議」への関心について

問2 富士山ネットワーク会議の活動について、関心がありますか。
次の中から1つだけ選んでお答えください。

全体 「富士山ネットワーク会議」について、「大いに関心がある」は8.9%で、「少し関心がある」は45.6%となっており、半数以上が関心をもっている。

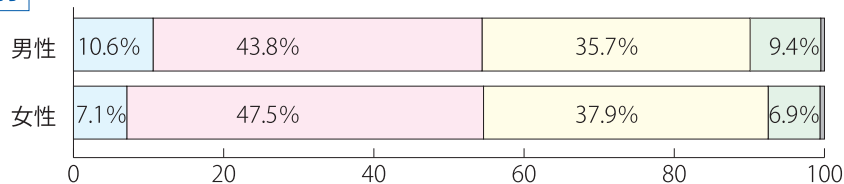


市町別



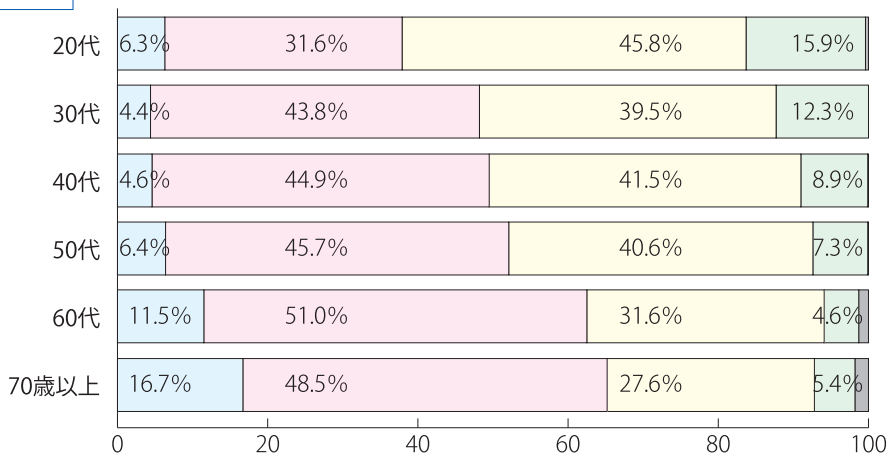
市町別では、「大いに関心がある」の割合はほぼ同じだが、「少し関心がある」は富士宮市が50.8%とやや高い。

男女別



男女別では、「大いに関心がある」の割合が男性10.6%で女性の7.1%よりやや高い。

年代別

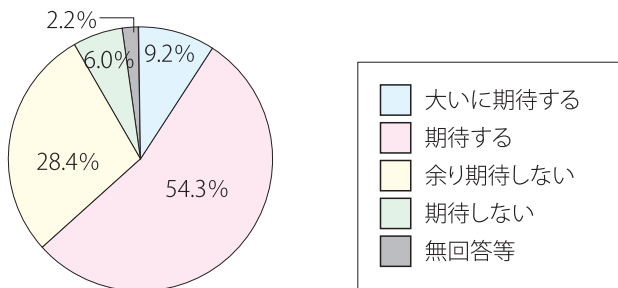


年代別では、「大いに関心がある」と答えた人は70歳以上の16.7%が最も高く、40代以降で、年齢が高くなるほど割合が高い。

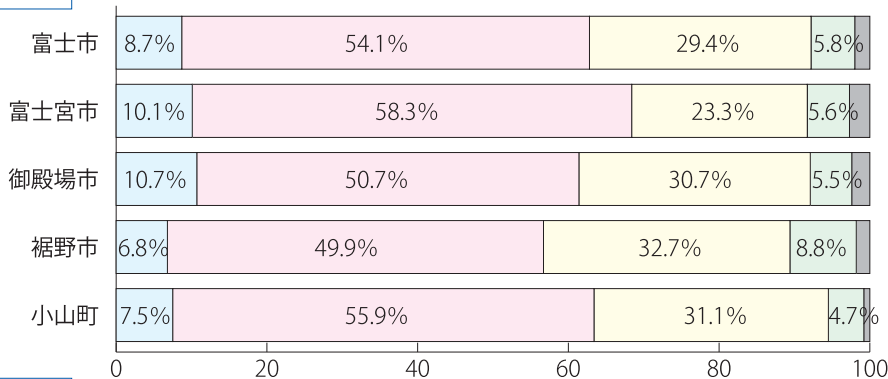
(3) 「富士山ネットワーク会議」への期待について

問9 今後、富士山ネットワーク会議の活動に対して期待しますか。
次の中から1つだけ選んでお答えください。

全体 「富士山ネットワーク会議の活動に「大いに期待する」は9.2%で「期待する」が54.3%。

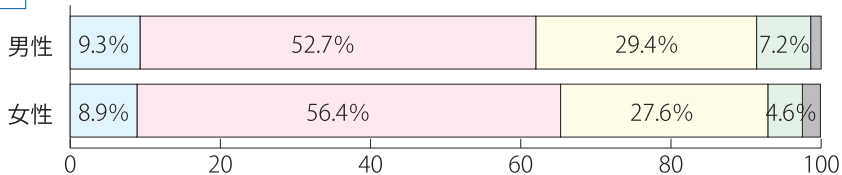


市町別



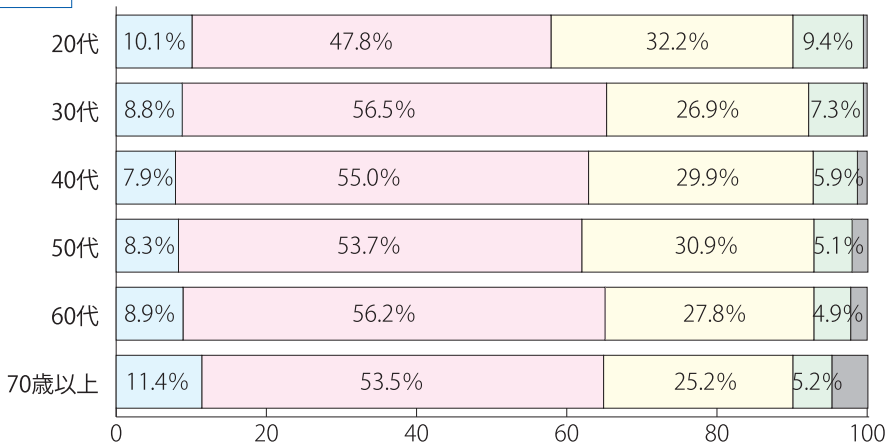
市町別では、「大いに期待する」「期待する」をあわせると富士宮市が最も高い。

男女別



男女別では、「大いに期待する」はほぼ男女同じだが、「期待する」は女性が56.4%で男性の52.7%よりやや高い。

年代別

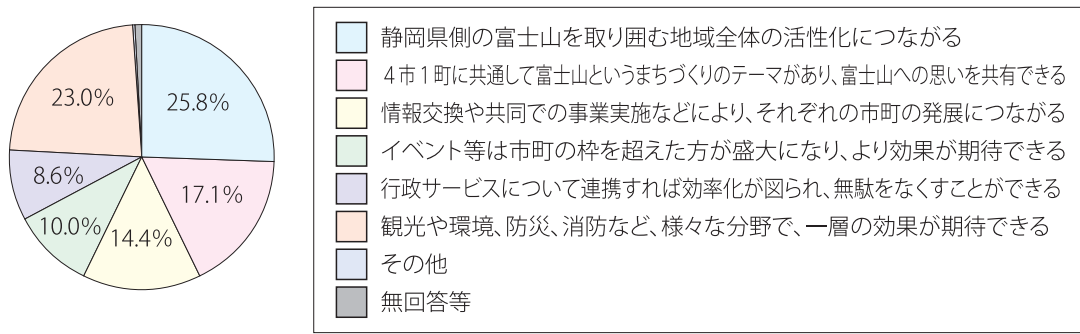


年代別では、「大いに期待する」が最も高いのは70歳以上の11.4%で、次いで20代の10.1%。

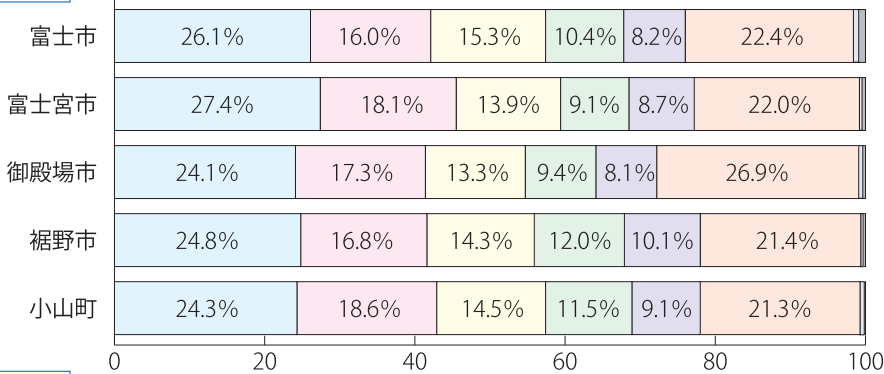
(4) 富士山ネットワーク会議に期待する理由について

問10 問9で「1 大いに期待する」または「2 期待する」と答えた方に伺います。
その理由はどのようなことからですか。次の中から2つ選んでお答えください。

全体 富士山ネットワーク会議への期待として最も多かったのは「静岡県側の富士山を取り囲む地域全体の活性化につながる」の25.8%で、次いで「観光や環境、防災、消防など、様々な分野で、一層の効果が期待できる」の23.0%。

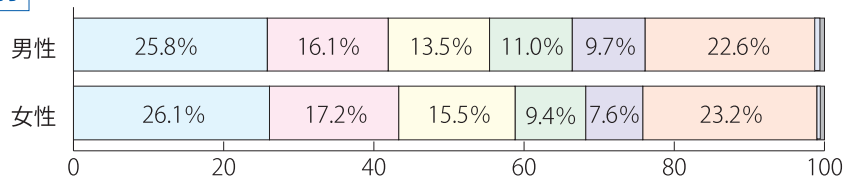


市町別



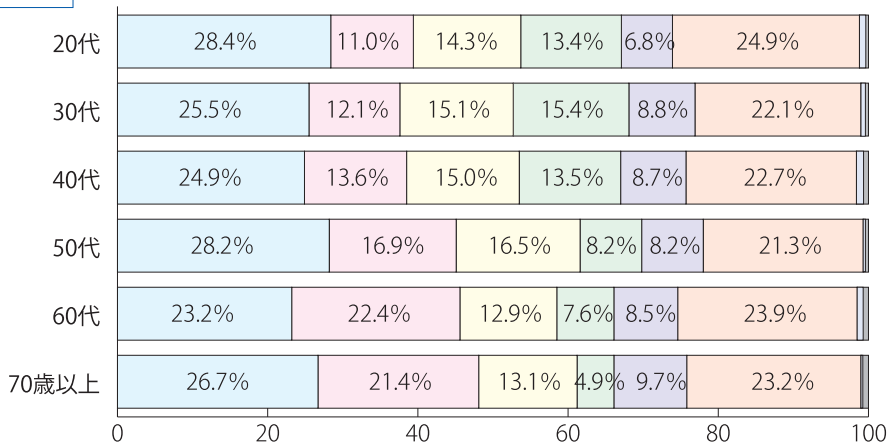
市町別では、富士宮市で「静岡県側の富士山を取り囲む地域全体の活性化につながる」が27.4%、御殿場市が「観光や環境、防災、消防など、様々な分野で、一層の効果が期待できる」が26.9%と他の市町よりやや高い。

男女別



男女別では、「情報交換や共同での事業実施などにより、それぞれの市町の発展につながる」が女性の15.5%で、男性の13.5%をやや上回る。

年代別

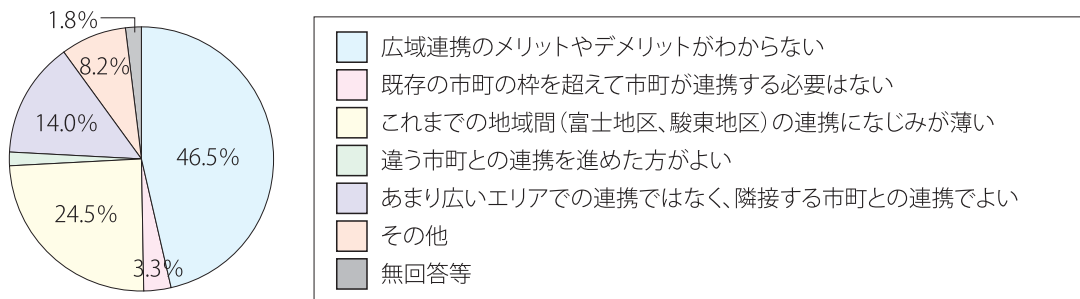


年代別では、「4市1町には共通して富士山というまちづくりのテーマがあり、富士山への思いを共有できる」が60代で22.4%と他の年代よりやや高い。

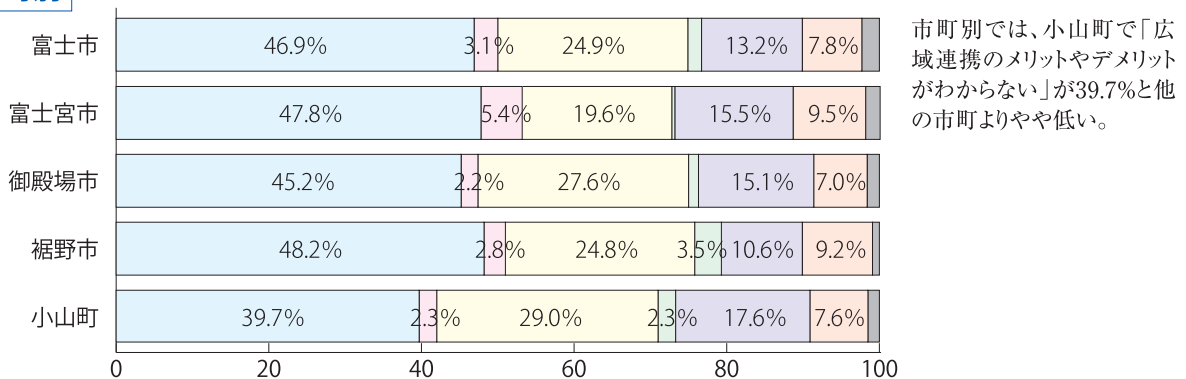
(5) 富士山ネットワーク会議に期待しない理由について

問11 問9で「3 余り期待しない」または「4 期待しない」と答えた方に伺います。
その理由はどのようなことからですか。次の中から2つ選んでお答えください。

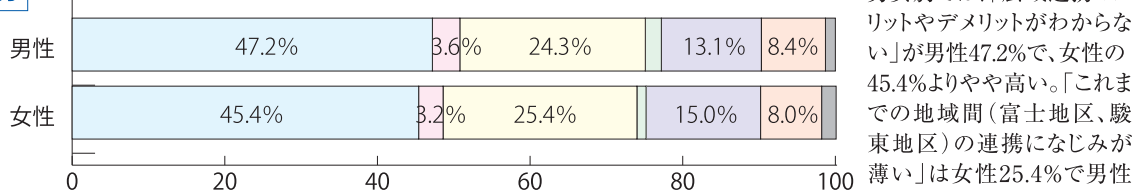
全体 富士山ネットワーク会議に期待しない理由として、「広域連携のメリットやデメリットがわからない」が46.5%と最も高く、次いで、「これまでの地域間(富士地区、駿東地区)の連携になじみが薄い」が24.5%。



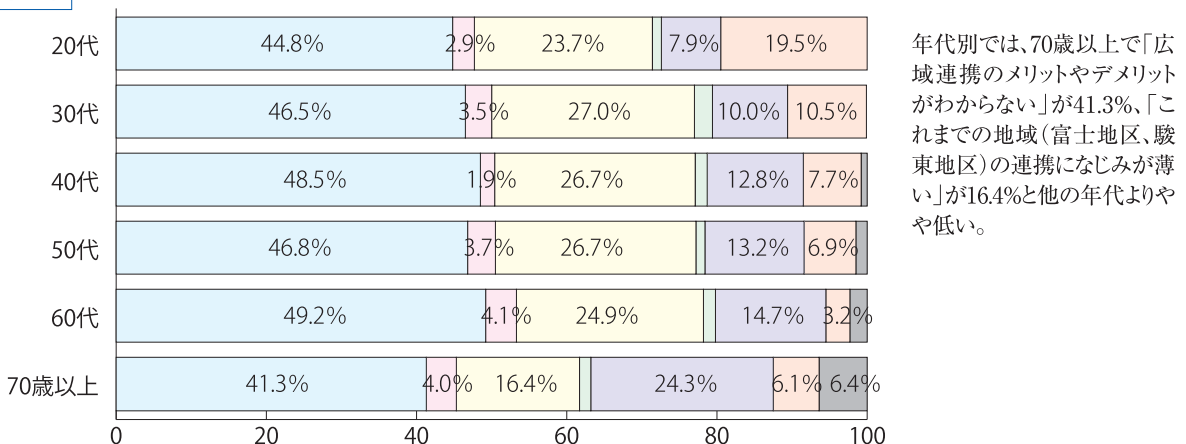
市町別



男女別



年代別



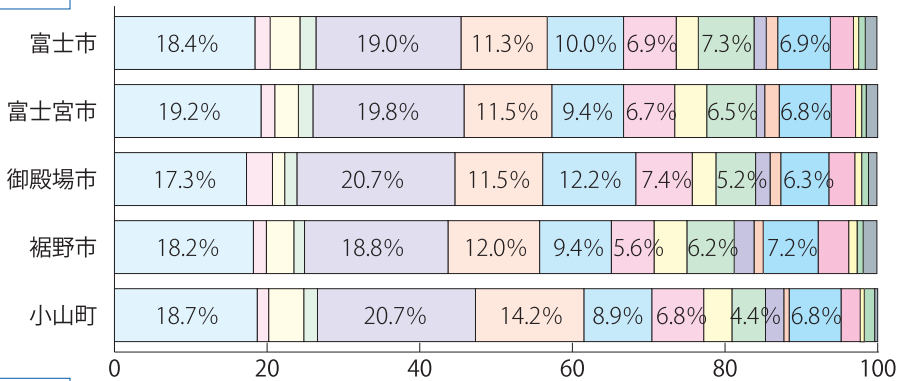
(6) 富士山ネットワーク会議で特に期待したい分野について

問12 今後、富士山ネットワーク会議4市1町の連携した取組で、特に期待したい分野はどれですか。次の中から3つ選んでください。

全体 富士山ネットワーク会議で特に期待したい分野としては、「防災・災害対策」が19.6%最も高く、「観光」が18.4%。

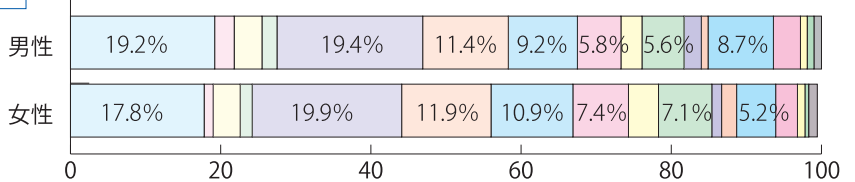


市町別



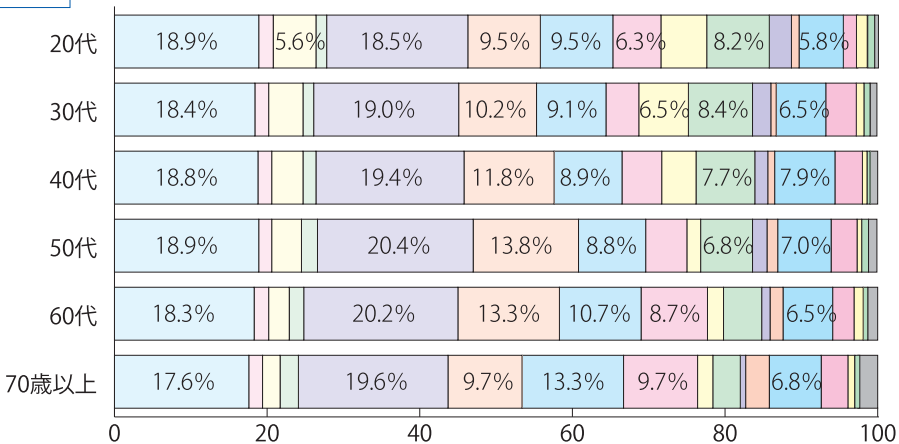
市町別では、すべての市町で「防災・災害対策」が最も高く、富士宮市の「観光」が19.2%、御殿場市の「医療」が12.2%と他の市町よりもやや高い。

男女別



男女別では、「医療」が女性10.9%で男性の9.2%より高く、「道路などのインフラ整備」は男性が8.7%で女性の5.2%より高い。

年代別



年代別では、60代や70歳以上の高年代において、医療や福祉分野への期待が高い。一方若い年代では、観光や商業に関する期待が高い。

3. 他市町とのつながり、市町村合併、広域連携、道州制について

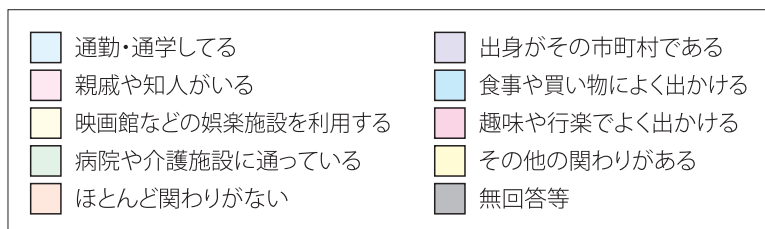
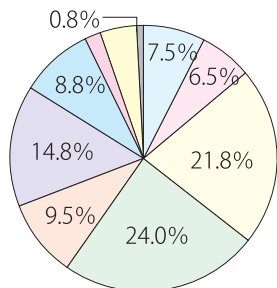
(平成23年度環富士山地域の広域連携に関する住民アンケートより抜粋)

(1) 近隣市町との生活上の関わりについて

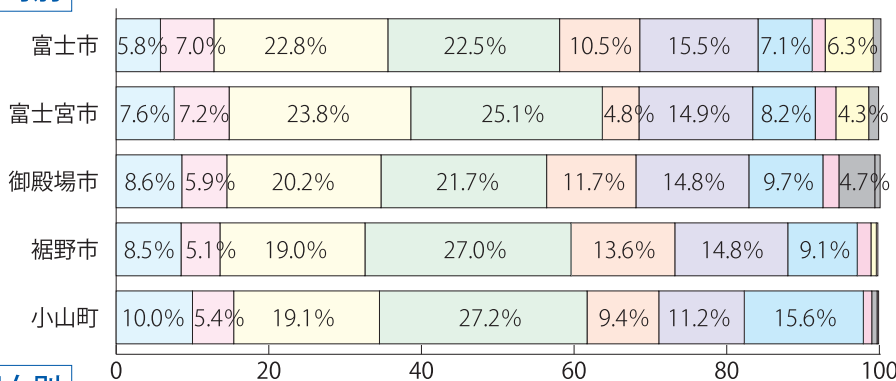
問13 あなたが現在住んでいる市町以外で、買い物や通勤、通学など、生活上、近隣の他市町村(問14の市町村を参照してください)に関わりがありますか。当てはまるものをすべてお選びください。

全体

近隣市町との生活上での関わりでは、「食事や買物によく出かける」が24.0%で最も多く、「親戚や友人がいる」が21.8%、「趣味や行楽でよく出かける」が14.8%。

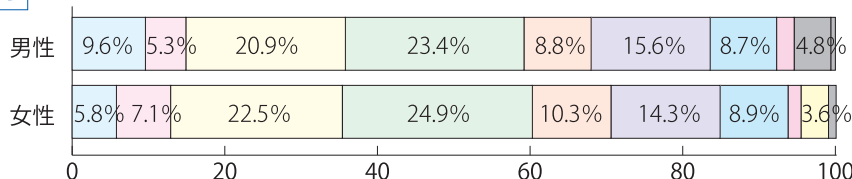


市町別



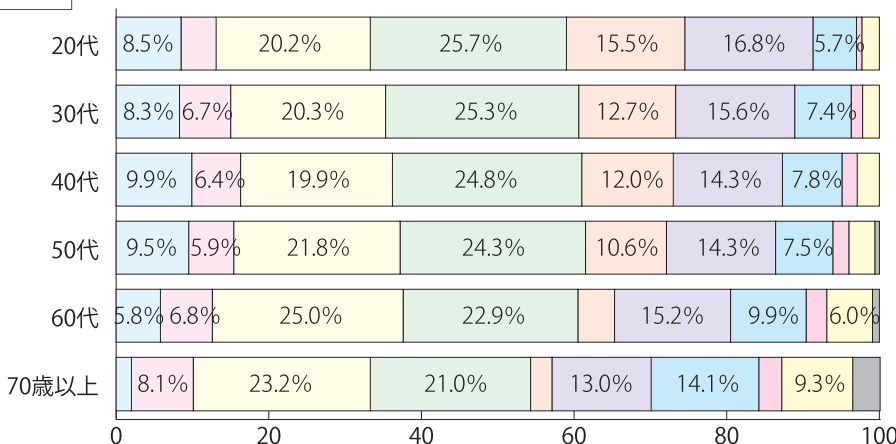
市町別では、裾野市、小山町が「食事や買物によく出かける」が27.0%、27.2%と他の市町よりもやや高く、富士市、御殿場市、富士宮市では「ほとんど関わりがない」が6.3%、4.7%、4.3%と他の市町よりも高い。

男女別



男女別では、「通学・通勤している」が男性が9.6%と女性の5.8%よりも高く、「親戚や友人がいる」は、女性が22.5%で、男性の20.9%よりも高い。

年代別

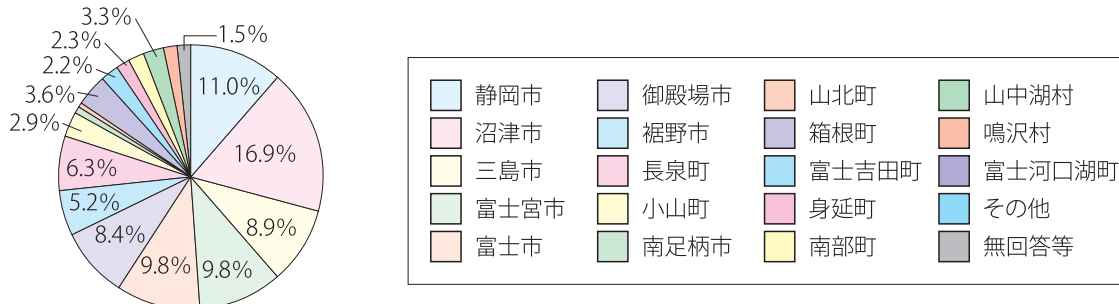


年代別では、「映画館などの娯楽施設を利用する」は20代が15.5%で最も高く、年代が上がる割合が下がっている。一方、「ほとんど関わりがない」は70歳以上で9.3%と最も高く、年代が上がる割合が上がっている。

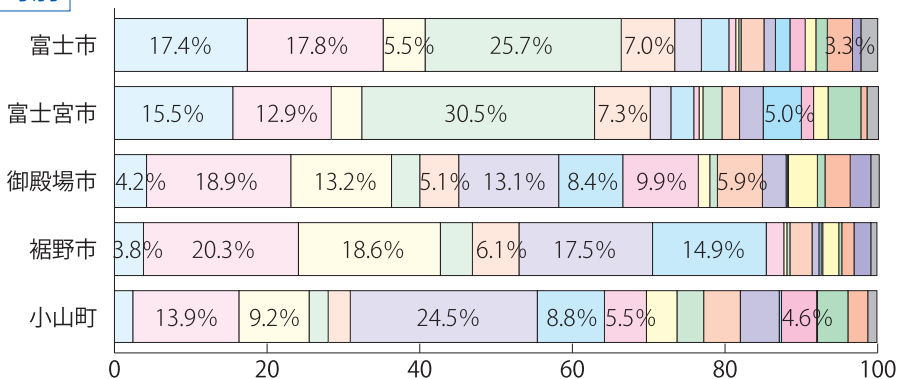
(2) 生活上関連がある市町村について

問14 問13で、1～8と答えた方に伺います。その生活上関連がある市町村は、どこですか。お住まいの市町以外で、当てはまる市町村すべてをお選びください。

全体 生活上で関連のある市町村では、「沼津市」が16.9%で最も多く、「静岡市」が11.0%、「富士市」「富士宮市」がともに9.8%、「三島市」が8.9%。

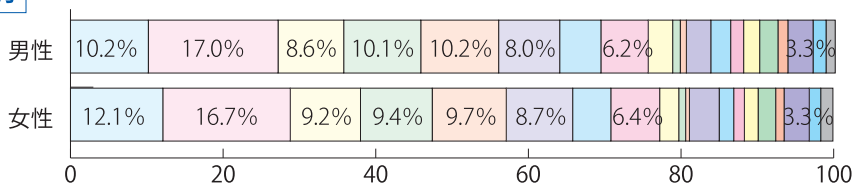


市町別



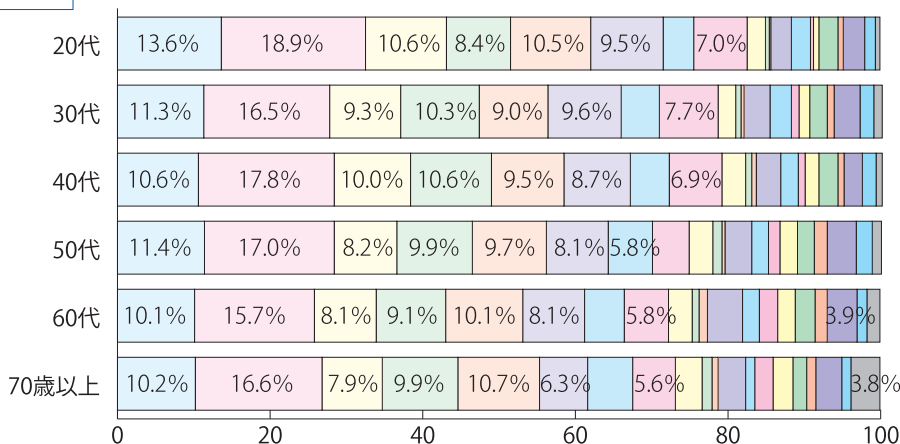
市町別では、市町によって差がある。富士宮市の「富士市」は30.5%、富士市の「富士宮市」25.7%、裾野市の「沼津市」18.9%、御殿場市の「沼津市」18.9%、小山町の「御殿場市」24.5%などが他の市町よりも多い。

男女別



男女別では、ほとんど差が見られないが、「静岡市」が女性は12.1%で男性の10.2%より1.9ポイント高い。

年代別



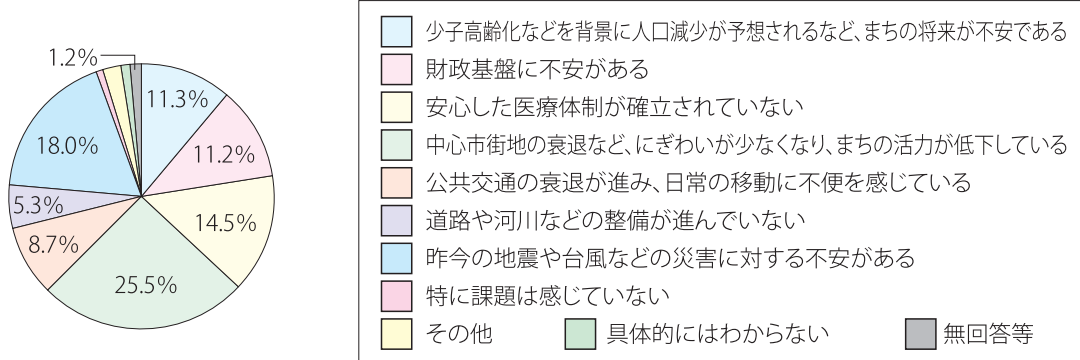
年代別では、あまり差はないが、「静岡市」は20代が13.6%で70歳以上では10.2%と徐々に減少している。

(3) 市町の課題について

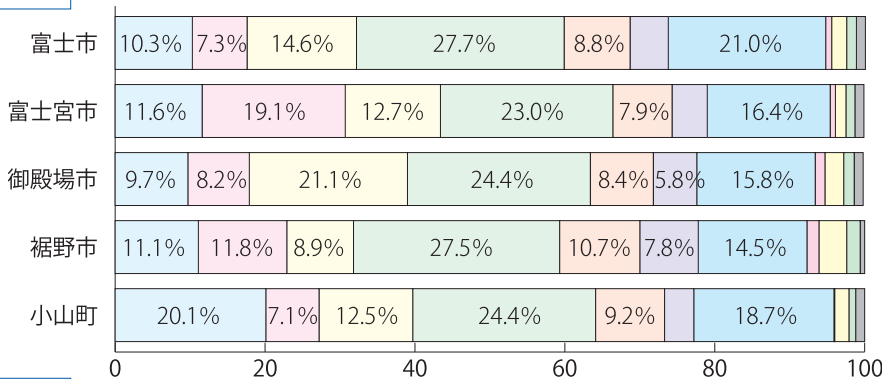
問15 あなたがお住まいの市町の課題は何ですか。次の中から3つ選んでお答えください。

全体

「中心市街地の衰退など、賑わいが少なくなり、まちの活力が低下している」が25.5%と最も高く、「昨今の地震や台風などの災害に対する不安がある」が18.0%。

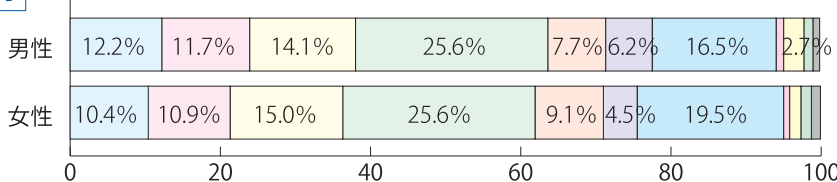


市町別



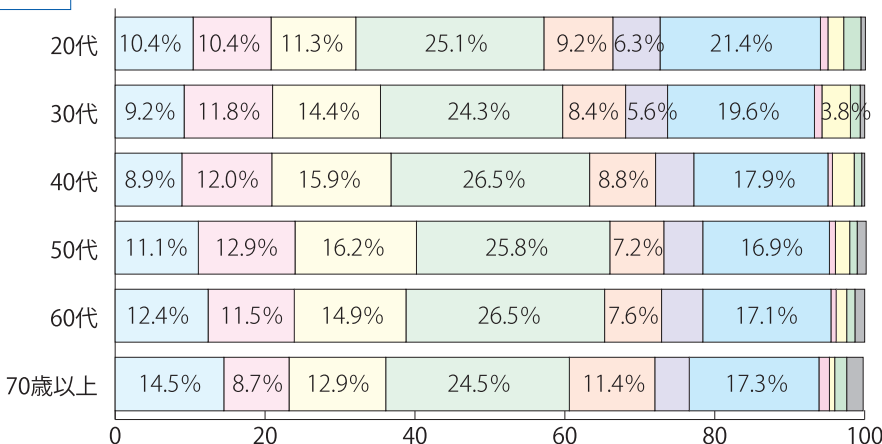
市町別では、富士宮市の「財政基盤に不安がある」が19.1%、御殿場市の「安心して医療体制が確立されていない」が21.1%、小山町の「少子高齢化などを背景に人口減少が予想されるなど、まちの将来が不安である」が20.1%と他の市町よりも高い。

男女別



男女別では、「昨今の地震や台風などの災害に対する不安がある」が女性で19.5%と男性の16.5%よりも高い。「道路や河川の整備が進んでいない」は男性が6.2%で女性の4.5%よりも高い。

年代別

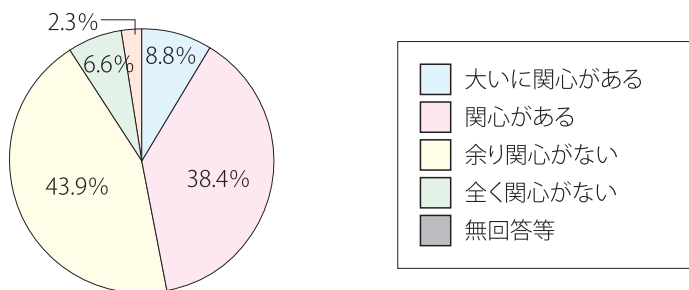


年代別では、「昨今の地震や台風などの災害に対する不安がある」は20代が21.4%で他の年代よりも高い。「安心して医療体制が確立されていない」は50代が16.2%で最も高い。

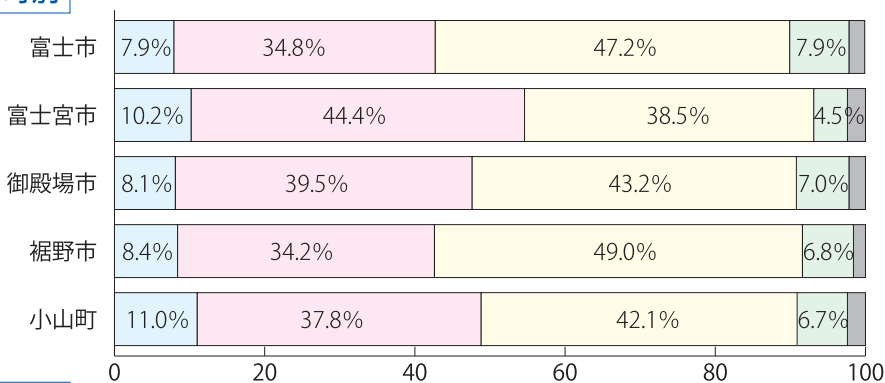
(4) 市町村合併、広域連携、道州制等について

問16 市町村合併、広域連携、道州制等について関心がありますか。
次の中から1つだけ選んでお答えください。

全体 市町村合併、広域連携、道州制等については、「余り関心がない」が43.9%で最も多く、「大いに関心がある」は8.8%。

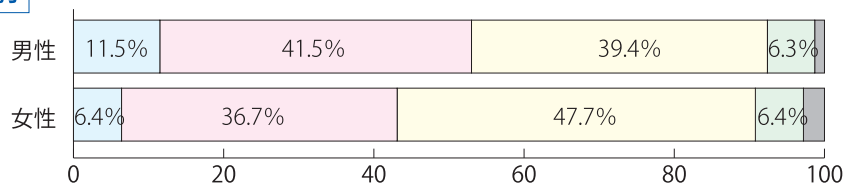


市町別



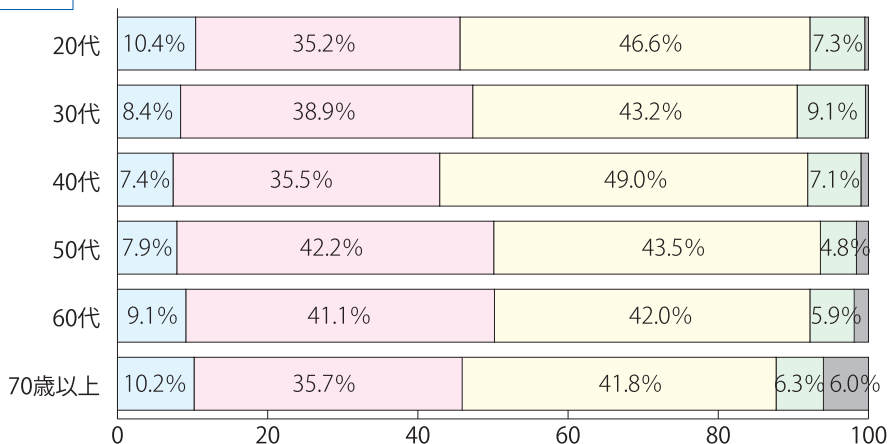
市町別では、「大いに関心がある」が最も多かったのは小山町の11.0%で、「大いに関心がある」「関心がある」を合わせると、富士宮市が最も多く、54.6%。「余り関心がない」が最も多かったのは、裾野市の49.0%。

男女別



男女別では、「大いに関心がある」は男性が11.5%で女性の6.4%よりも高く、「余り関心がない」は女性が47.7%で男性の39.4%よりも高い。

年代別

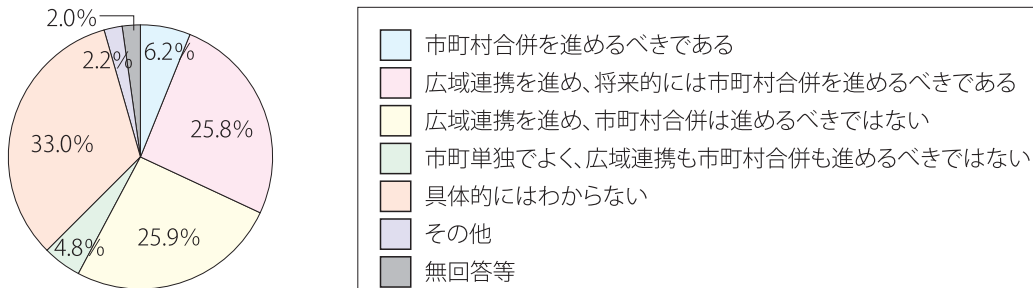


年代別では、「大いに関心がある」が最も多かったのは20代の10.4%、70歳以上の10.2%で、「余り関心がない」が多かったのは40代の49.0%。

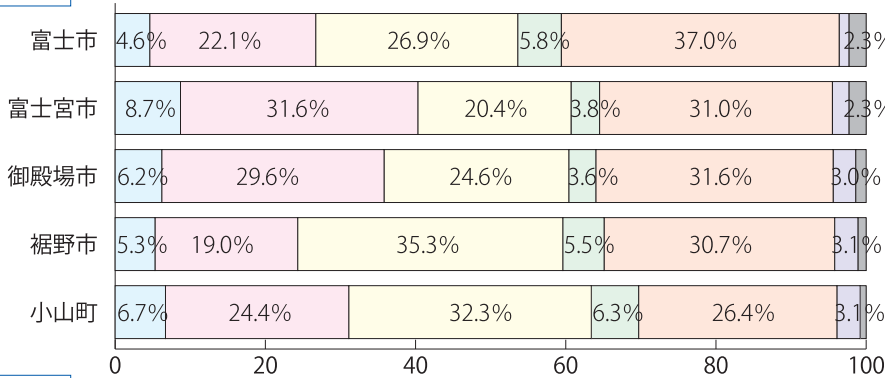
(5) 将来にむけた市町村合併や広域連携について

問17 市町の将来を考えた場合、市町村合併や広域連携について、どのようにお考えですか。次の中から1つだけ選んでお答えください。

全体 将来にむけた市町村合併や広域連携については、「具体的にはわからない」が33.0%で最も多く、「広域連携を進め、将来的には市町村合併を進めるべきである」が25.8%、「広域連携を進め、市町村合併は進めるべきではない」が25.9%。

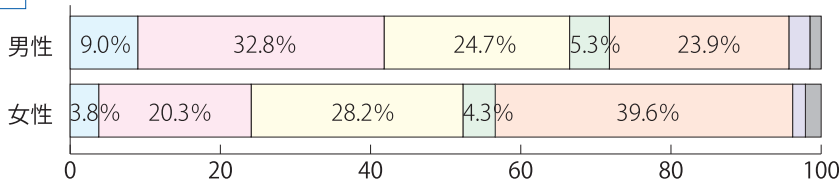


市町別



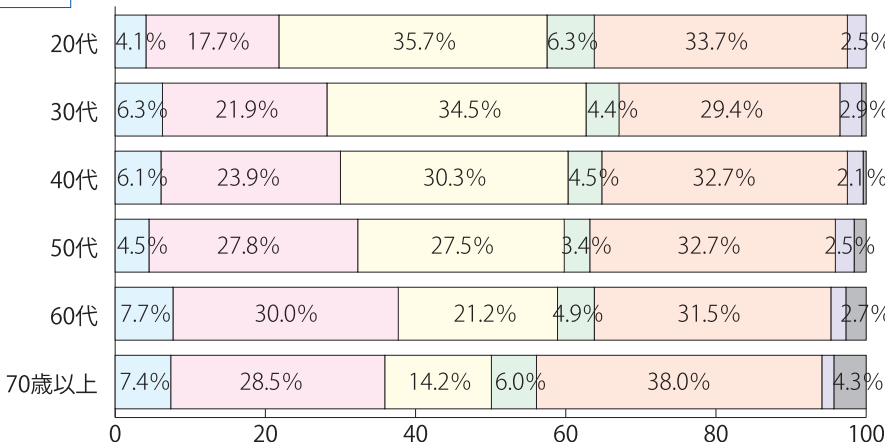
市町別では、「市町村合併を進めるべきである」が最も高かったのは、富士宮市の8.7%で、「広域連携を進め、市町村合併を進めるべきではない」が最も高いのは、裾野市の35.3%。富士市では、「具体的にはわからない」との回答が37.0%で最も高い。

男女別



男女別では、「市町村合併をすすめるべきである」は男性が9.0%で女性の3.8%よりも高く、「具体的にはわからない」は女性が39.6%で男性の23.9%よりも高い。

年代別



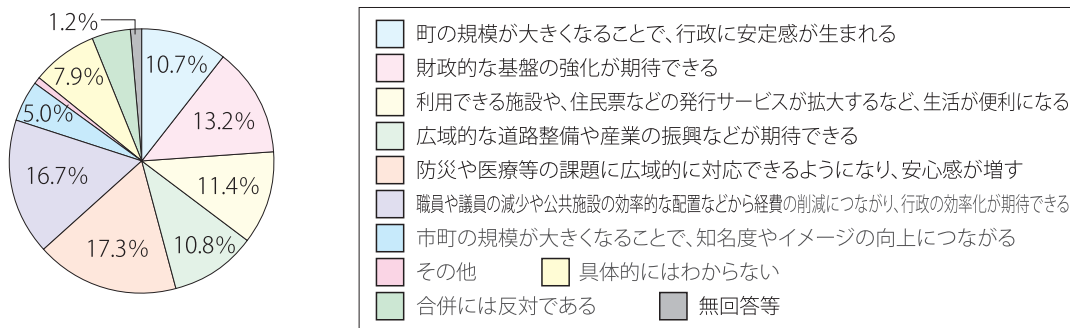
年代別では、「市町村合併を進めるべきである」が最も高いのは60代の7.7%、70歳以上の7.4%で、「広域連携を進め、市町村合併は進めるべきではない」が最も高いのは20代の35.7%と年代が下がるほど高い。

(6) 市町村合併の効果への期待について

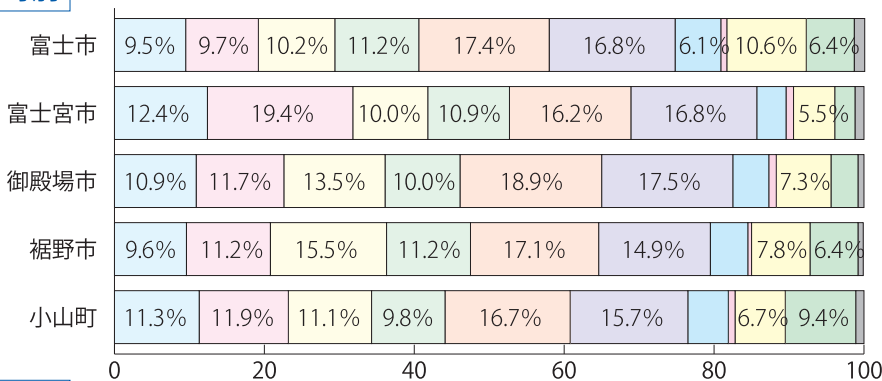
問18 あなたのお住まいの市町が、近隣のどこかの市町村と合併するとしたら、どのような効果を期待しますか。次の中から3つ選んでお答えください。

全体

市町村合併による効果で期待するもので多かったものは、「防災や医療等の課題に広域的に対応できるようになり、安心感が増す」が17.3%、次いで「職員や議員の減少や公共施設の効率的な配置などから経費の削減につながり、行政の効率化が期待できる」の16.7%。

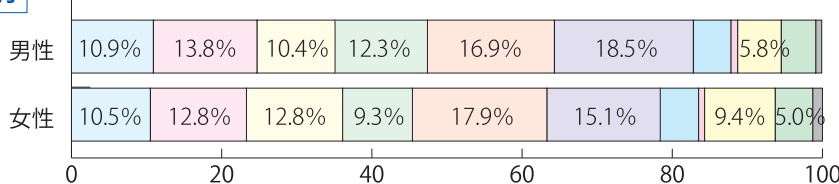


市町別



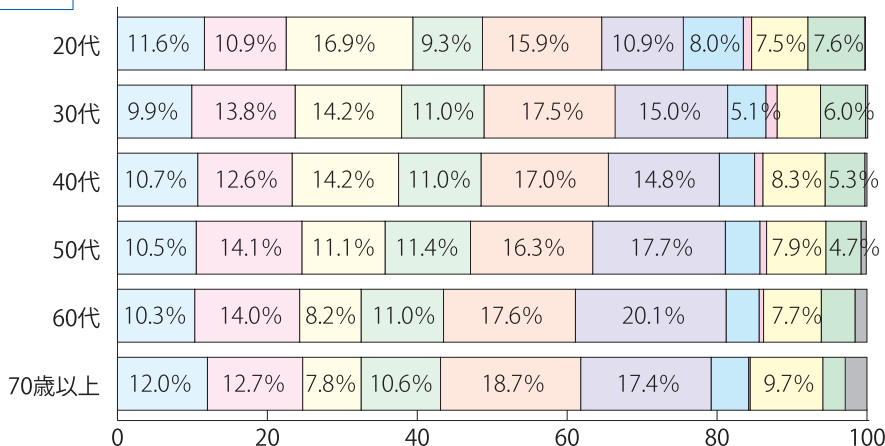
市町別では、富士宮市で「財政的な基盤の強化が期待できる」が19.4%と他の市町よりも高く、「合併には反対である」が2.7%で他の市町よりも低い。

男女別



男女別では、「職員や議員の減少や公共施設の効率的な配置などから経費の削減につながり、行政の効率化が期待できる」が男性の18.5%で女性の15.1%よりも高い。「具体的にはよくわからない」は女性が9.4%で男性の5.8%よりも高い。

年代別

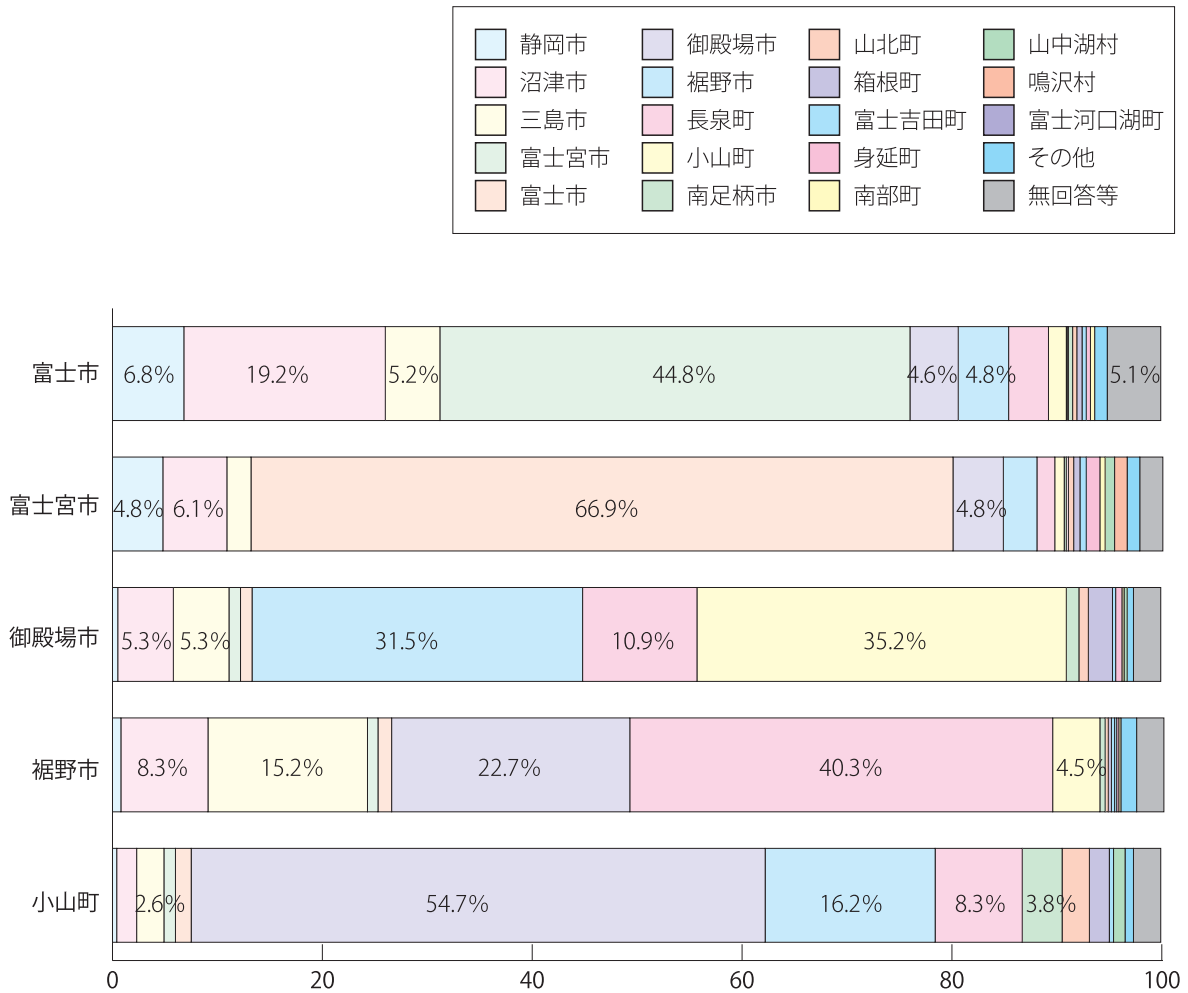


年代別では、「利用できる施設や、住民票などの発行サービスが拡大するなど、生活が便利になる」が20代で16.9%と最も高く、年代が上がる割合が下がる。

(7) 市町村合併の相手先について

問19 問18で、1～8と答えた方に伺います。あなたのお住まいの市町が、近隣のどこかの市町村と合併するとしたら、どの市町村との合併が適当であるとお考えですか。お住まいの市町以外で、適当と思える市町村を次の中からいくつでも選んでください。()内の数字は各市町村の人口を示しており、単位は万人で、おおよその数値を示しています。

市町別 市町別では、富士市では「富士宮市」44.8%、富士宮市では「富士市」66.9%、御殿場市では「小山町」35.2%、裾野市では「長泉町」40.3%、小山町では「御殿場市」54.7%が最も多く、御殿場市では「裾野市」も31.5%。

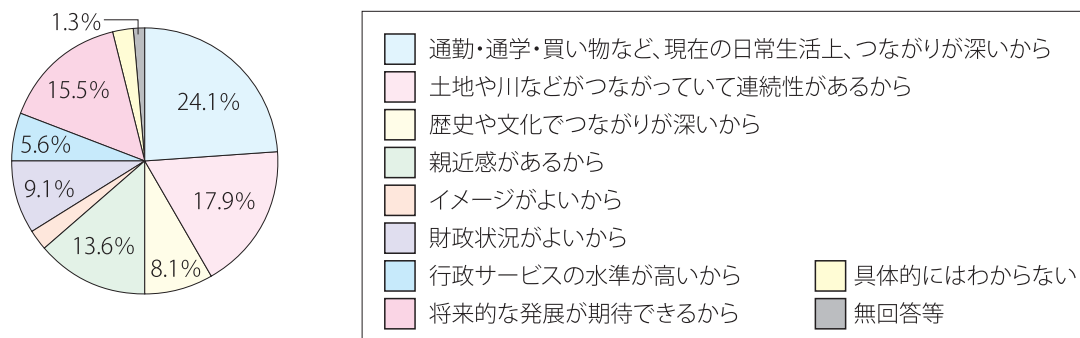


(8) 合併の相手先として重視した点について

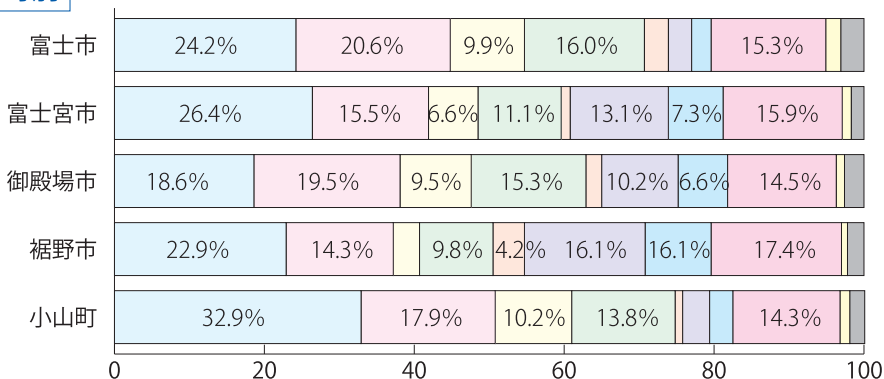
問20 問18で、1～8と答えた方に伺います。合併の相手の市町村として重視した点について、あなたの考えに近いものを次の中から3つ選んでください。

全体

市町村合併の相手先として重視した点については、「通勤・通学・買い物など、現在の日常生活上、つながりが深いから」が24.1%で最も高く、「土地や川などがつながっていて連続性があるから」が17.9%、「将来的な発展が期待できるから」が15.5%。

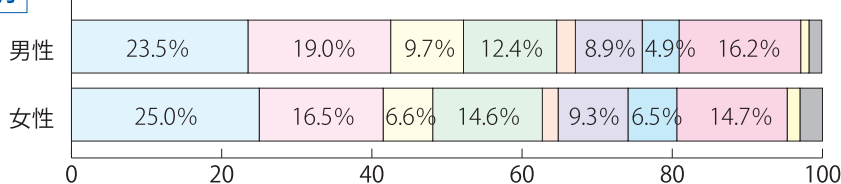


市町別



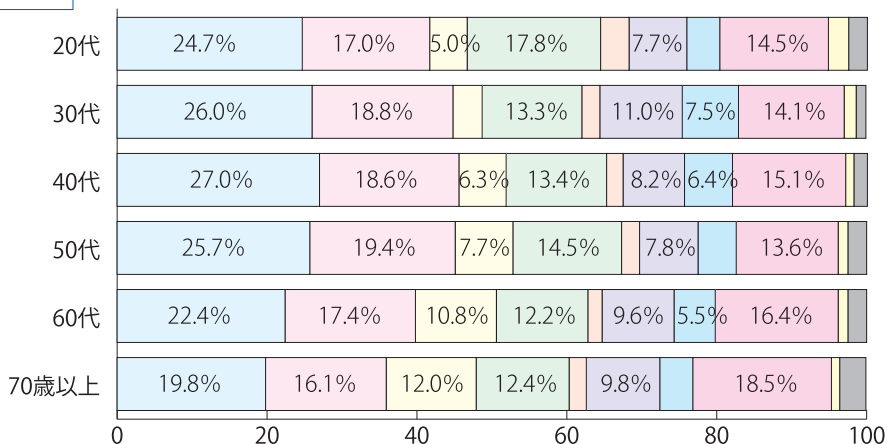
市町別では、富士市で「親近感があるから」16.0%、裾野市で「財政状況がよいから」16.1%、小山町で「通勤・通学・買い物など、現在の日常生活上、つながりが深いから」32.9%などが他の市町よりも高い。

男女別



男女別では、大きな差は見られないが、「歴史や文化でつながりが深いから」が男性で9.7%と女性の6.6%よりも高い。「行政サービスの水準が高いから」は女性が6.5%で男性の4.9%よりも高い。

年代別



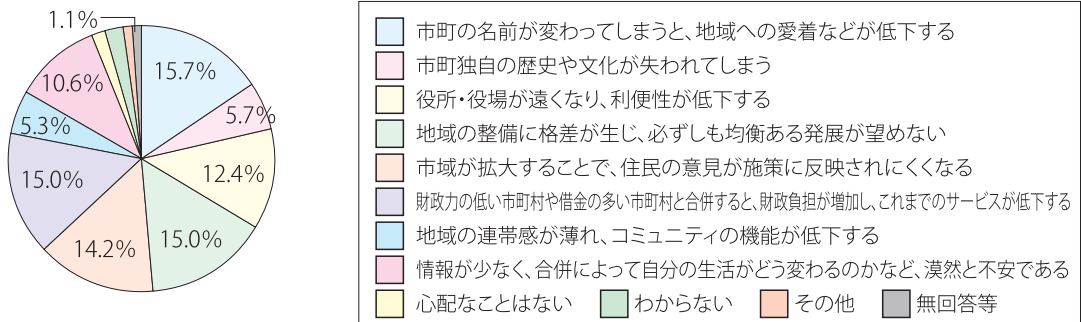
年代別では、「歴史や文化でつながりが深いから」は70歳以上が12.0%で最も高く、年代が上がる割合も上がる。

(9) 市町村合併での心配について

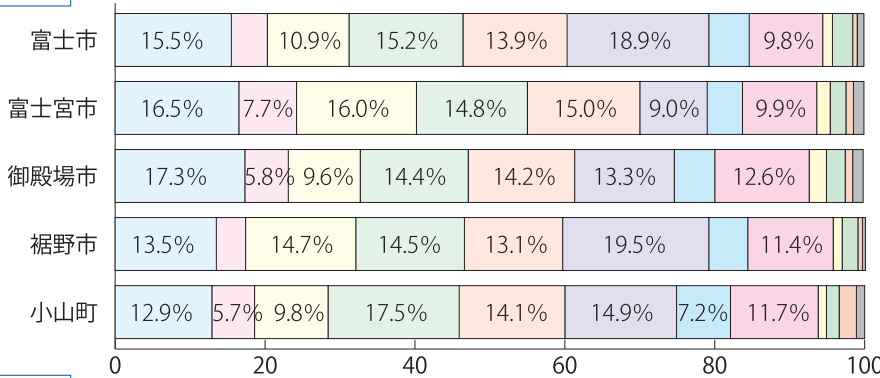
問22 あなたがお住まいの市町が合併するとしたら、どのようなことが心配になりますか。あなたの考えに近いものを、次の中から3つ選んでください。

全体

市町村合併するとしたら、心配なこととしては、「市町の名前が変わってしまうと、地域への愛着などが低下する」が15.7%、「地域の整備に格差が生じ、必ずしも均衡ある発展が望めない」「財政力の低い市町村や借金の多い市町村と合併すると、財政負担が増加し、これまでのサービスが低下する」がともに15.0%。

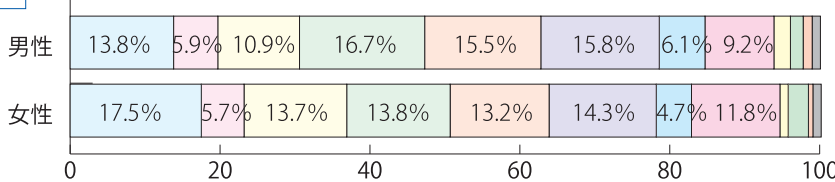


市町別



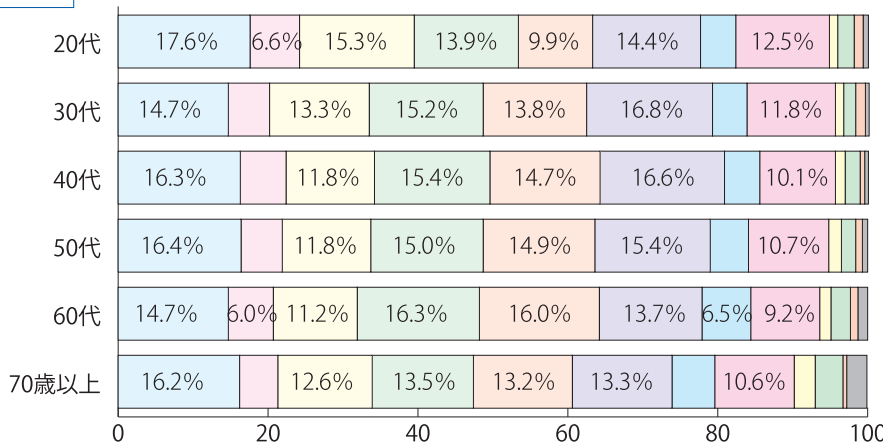
市町別では、富士宮市で「市町の名前が変わってしまうと、地域への愛着などが低下する」16.5%、「役所・役場が遠くなり、利便性が低下する」16.0%が他の市町よりも高い一方で、「財政力の低い市町村や借金の多い市町村と合併すると、財政負担が増加し、これまでのサービスが低下する」が9.0%と他の市町よりも低い。

男女別



男女別では、「市町の名前が変わってしまうと、地域への愛着などが低下する」は女性が17.5%で、男性の13.8%よりも高く、「地域の整備に格差が生じ、必ずしも均衡ある発展が望めない」は男性が16.7%で女性の13.8%よりも高い。

年代別



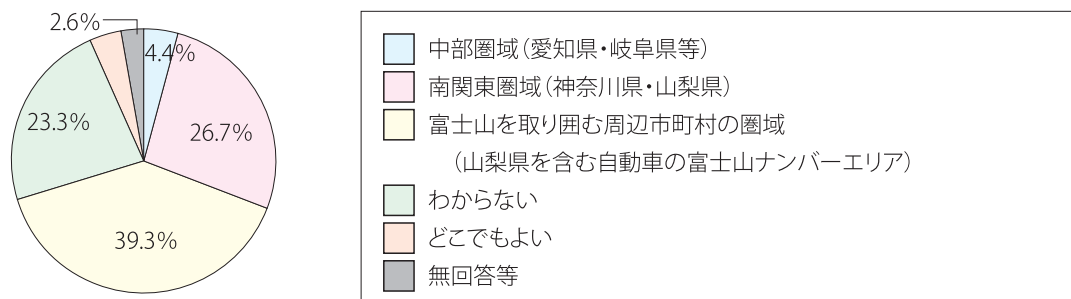
年代別では、20代で「市町の名前が変わってしまうと、地域への愛着などが低下する」が16.2%、「役所・役場が遠くなり、利便性が低下する」が15.3%で、他の年代よりもやや高い。

(10) 道州制の圏域について

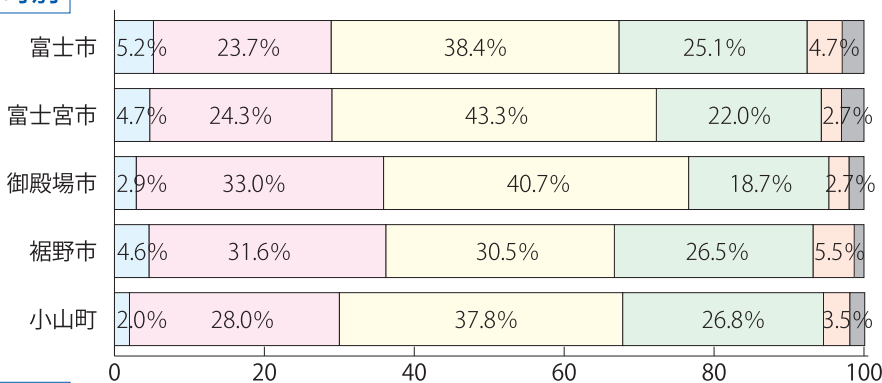
問23 都道府県から道州制に移行する議論がありますが、道州制に移行するとしたら、自分の住んでいる市町はどの圏域に入るのがよいと思いますか。次の中から1つだけお選びください。

全体

道州制に移行するとしたら、どの圏域がよいかについては、「富士山を取り囲む周辺市町村の圏域(山梨県を含む自動車の富士山ナンバーエリア)」が39.3%と最も高い。

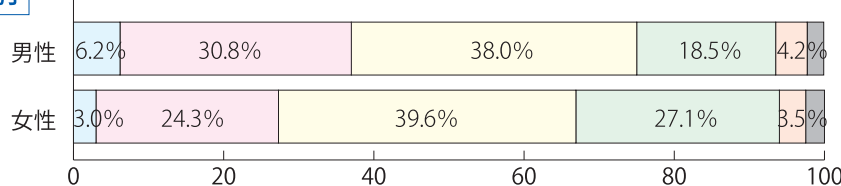


市町別



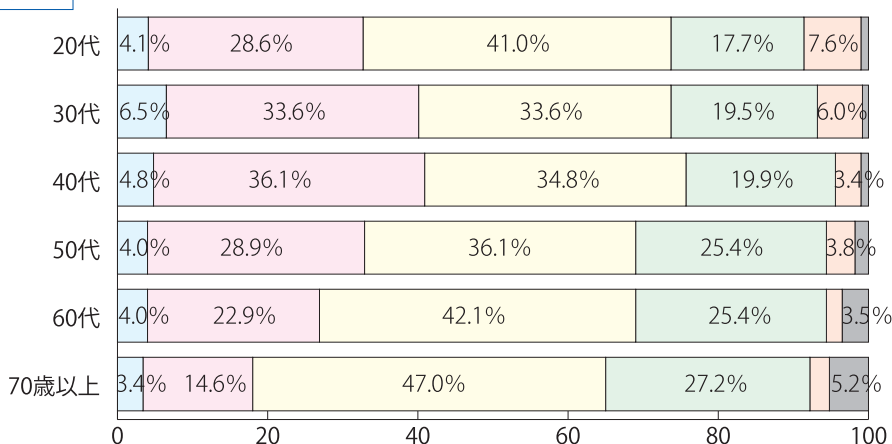
市町別では、「富士山を取り囲む周辺市町村の圏域(山梨県を含む自動車の富士山ナンバーエリア)」が富士宮市で43.3%、御殿場市で40.7%。

男女別



男女別では、「南関東圏域(神奈川県・山梨県等)」は男性で30.8%と女性の24.3%より高く、「わからない」は女性が27.1%で男性の18.5%よりも高い。

年代別



年代別では、「南関東圏域(神奈川県・山梨県等)」は40代で36.1%と他の年代よりも高く、「富士山を取り囲む周辺市町村の圏域(山梨県を含む富士山ナンバーエリア)」は70歳以上の47.0%が最も高い。

3 富士山ネットワーク会議 名簿一覧



平成25年度 富士山ネットワーク会議 首長会議名簿

会 長	裾野市長	大 橋 俊 二
副会長	富士宮市長	須 藤 秀 忠
	富 士 市 長	鈴 木 尚
	御殿場市長	若 林 洋 平
	小 山 町 長	込 山 正 秀

平成25年度 富士山ネットワーク会議 幹事会名簿

代表幹事	裾野市企画部企画政策課長	小 林 浩 文
副代表幹事	富士宮市企画部未来企画課長	佐 野 宏 幸
幹 事	富 士 市 総 務 部 企 画 課 長	山 田 教 文
幹 事	御殿場市企画部企画課長	杉 山 清
幹 事	小山町企画総務部町長戦略課長	小 野 学

環富士山地域広域連携ビジョン

発行日 平成25年10月28日

発行者 富士山ネットワーク会議企画研究会

■富士市役所／総務部 企画課

住所:静岡県富士市永田町1丁目100番地

電話:0545-51-0123

■富士宮市役所／企画部 未来企画課

住所:静岡県富士宮市弓沢町150番地

電話:0544-22-1111

■御殿場市役所／企画部 企画課

住所:静岡県御殿場市荻原483番地

電話:0550-83-1212

■裾野市役所／企画部 企画政策課

住所:静岡県裾野市佐野1059番地

電話:055-992-1111

■小山町役場／企画総務部 町長戦略課

住所:静岡県駿東郡小山町藤曲57番地の2

電話:0550-76-1111

印刷 エビスLLC

静岡県御殿場市二枚橋312の1

TEL 0550-70-0022
